

15<sup>th</sup> ANNIVERSARY

# 生活工房 アニュアルレポート 2012

LIFESTYLE DESIGN CENTER ANNUAL REPORT 2012

April.2012—March.2013



2012年に15周年を迎えた生活工房。

世田谷区、そして三軒茶屋の暮らしとともに15年。

今年度もキャロットタワーから様々な情報を発信しました！

# 生活工房の考え方

Our vision and mission

生活工房では展覧会やセミナー、ワークショップなど多様な事業を展開しています。  
そして、その多岐に渡る事業は、下図のような考え方や目的を組み合わせ実施されています。

We produce various programs along with the vision and missions of each category.

## 私たちが提案する価値観

Value to share

暮らし方を見つめなおし、世界の出来事への関心を抱き、感性を磨く  
Re-designing your everyday life,  
enlarge the mind for global issues and brush up sensitivity.

### 感性

Sensitivity, Sense of wonder

### 美意識

Aesthetic consciousness



## 方向性

Vision

文化の創造及び異文化との出会いは人を啓き、地域を開き、未来を拓く  
Cultural creation and intercultural exchange enlighten people,  
open up local communities and lead our future.

# 生活工房とは？

What's LIFESTYLE DESIGN CENTER

## 暮らしのデザインミュージアム

生活文化という発想

生活工房では日常の暮らしの中にあるモノだけでなく様々な事柄に着目し、暮らし方のデザインを提案しています。2012年度（平成24年度）も衣食住というくくりを、デザイン・文化・環境などの視点からアプローチして多様なプログラムを展開いたしました。

今ここにある暮らしを過去と現在、現在から未来へ探っていくと、日常の創意工夫の中にたくさんの宝物があることに気付かされます。美しい手工芸や伝統工芸、異なる文化との出会い、食文化の創意工夫などは、驚きと楽しさを与えてくれます。また、地球の目線で私たちを取り巻く環境を眺めてみると「恵みとリスク」が隣り合わせだということが見えてきます。そして、技術やデザインも様々な環境に寄り添う視点が大切だということがわかります。

「みる×しる×つくる＝暮らしが変わる」

生活工房はこれからも、先人の知恵や先端技術をどのように今の暮らしに活かすことができるかを考え、そう遠くない未来の暮らし方を創造するような機会を届けていきたいと考えています。

"Lifestyle Design Center" or "Seikatsu-Kobo" in Japanese is the public facility where you can enjoy various programs like exhibitions, seminars and workshops for all ages. In 2012, we've provided various programs which we define "culture" as our lifestyle (including clothing, food and housing or shelter).

Cultures with long histories continue to develop and create beautiful things, based on the needs and lifestyles of the time. Encounter a "different cultures" nourishes our natural curiosity. Look closely where we live, there are blessings of the nature which is always dangerous and devastating. And from those aspects we realize it is important for both design work and technology to be aware of people and nature.

"Watch, Touch, Feel and Consider", is the essence of our programs. We would like to provide various programs so that we will be able to learn from traditional way of life, and give birth to the source of hope in the future. Thank you.



7月1日  
 知の航海2012  
 ぐるぐるエネルギー vol.1  
 エネルギーと  
 世田谷モジュール

7月29日  
 知の航海2012  
 ぐるぐるエネルギー vol.2  
 これからの種

8月3日-5日  
 地球に触ろう、  
 “希望の地球”を語ろう!

9月2日  
 知の航海2012  
 ぐるぐるエネルギー vol.3  
 くくのちあきまつり

10月6日  
 知の航海2012  
 ぐるぐるエネルギー vol.4  
 土徳を食む

3月17日  
 知の航海2012  
 ぐるぐるエネルギー vol.5  
 たべもののポリティクス

通年 朗読講座  
 豊かなことばの世界  
 (後援:世田谷区)

## セミナー／イベント Seminar/Event

### 社会を知る、学びを楽しむ

専門家やクリエイターを招き、暮らしや文化に関する生きた言葉に触れる様々な講演やトークイベントを実施しています。

Wide-ranging program of seminars and events for adults brings the academic field and creative world of design into our everyday life.



# 生活工房

「展覧会」

「ワークショップ」

「セミナー／イベント」

「地域と市民活動」

の4つの事業を主として  
 生活工房は運営されています。

## 展覧会 Exhibition

### 新たな発見が暮らしを彩る

生活工房ギャラリーやワークショップルームでは、デザインやクラフト、異文化など多角的なテーマで展示を実施しています。

We are pioneering program of creative world of various designs, arts & crafts and intercultural experience into everyday life which will offer new and different view and value to share.



4月7日-5月20日  
 日本の伝統文化と歳時記 Vol.3  
 和の色彩と紋様みる「江戸の粋」

5月25日-6月17日  
 異郷 西江雅之写真展

6月24日-7月22日  
 7つの海と手しごと(第3の海)  
 地中海とトルコのイーネオヤ

7月29日-9月2日  
 アトリエjiwaのじわじわjiwa展

9月14日-10月7日  
 JAPONDER 9  
 第9回留学生研究発表会

10月13日-11月18日  
 アトリエプラヴォ展覧会

11月23日-1月14日  
 アトツギ 山と里、庄内にまなぶ展

1月20日-2月3日  
 DAYS JAPAN 写真展

2月9日-24日  
 14歳のワンピース

3月1日-31日  
 インフォメーショングラフィックス展  
 【環境編】

3月15日-4月1日  
 日常/非日常展  
 世界の明日につながるデザイン

4月21日・22日  
 世田谷アートフリマ vol.17  
 (後援:世田谷区)

7月22日  
 災害対応図上訓練  
 もし大災害が起きたら (後援:世田谷区)

8月22日-24日  
 おはなしいっぱい

9月22日・23日  
 世田谷アートフリマ vol.18  
 (後援:世田谷区)

11月3日  
 世田谷アートフリマ in 文学館  
 (主催:世田谷区)

11月6日  
 世田谷おはなしネットワーク講演会

2月23日  
 国際交流 in せたがや2013

2月19日・26日  
 市民活動のための  
 ファンドレイジングセミナー  
 (後援:世田谷区)

通年 ギャラリーカフェくりっく  
 市民活動支援コーナー  
 (後援:世田谷区)

世田谷市民活動支援会議  
 (主催:世田谷市民活動支援会議)

隔年 世田谷区芸術アワード“飛翔”  
 (主催:世田谷区)



### 地域とつながる

地域の活動と交流を支援し、多様な価値観や共感の輪を広げ、ネットワークを構築し豊かな地域づくりのお手伝いをしています。

Operating activity space and supporting programs for non-profit organizations, we encourage local citizens' networking with various people and exchange ideas for developing sustainable society.

## 地域と市民活動 Local Community

# Lifestyle Design Center

Lifestyle Design Center provides four main figures of programs:  
 Exhibition, Workshop,  
 Seminar/Event and  
 Local Community.



### 多彩なモノづくりを楽しむ

参加者が手や体を動かしながら「考え」「作る」ワークショップでは、子どもから大人までが楽しめる多彩なプログラムを実施しています。

Our design and creativity workshops for all ages offer fun and inspiring time to experience. In cooperation with exterior venue of specific function strengthen some of the programs.

## ワークショップ Workshop

6月3日  
 中学生次世代車教室 第1回  
 エコカーを組み立てて  
 乗ってみよう!

7月8日  
 中学生次世代車教室 第2回  
 エコカーを組み立てて  
 乗ってみよう!

7月28日  
 くらし・うるし・研究室

8月4日・5日  
 『触れる地球』を体感しよう!

8月15日・16日  
 みんなのなまえてアニメーション!

11月3日  
 分解ワークショップ

11月17日  
 中学生次世代車教室 第3回  
 エコカーを組み立てて  
 乗ってみよう!

12月8日・9日  
 DJ体験教室  
 SETAGAYA★MIX2012

12月9日・15日・16日  
 14歳のワンピース

2月9日  
 生命をつつむ未来繊維2  
 「いつもを運ぶ衣服」



02 生活工房について

## インタビュー

- 08 「新しい仕組みを構築し、  
途上国にテクノロジーを届ける」  
中村俊裕 (米国NPO法人コベルニク)
- 11 「文化をたずねて」  
西江雅之 (文化人類学者・言語学者)
- 28 「進化する伝統 和紙製造の老舗から」  
小林一夫 (お茶の水 おりがみ会館館長)

## 生活工房のセミナー

- 16 「ジャーナリストの視点から」  
広河隆一 (フォト・ジャーナリスト)
- 20 「日本型エコロジーとしての  
“エネルギー”」  
中沢新一 (思想家・人類学者)

## 事業関連トピックス

- 22 14歳のワンピース DOKIDOKI 撮影会
- 24 アトリエブラヴォの作品
- 26 HOW TO いつもを運ぶ衣服
- 30 ブラブラブラヴォな日々
- 32 環境を知るためのグラフィックデザイン

## コラム

- 19 「“どうにもならねえ” 庄内ライフ」  
成瀬正憲 (山伏/日知舎)
- 25 「社会へつなぐ、幸せのカたち」  
原田啓之 (JOY倶楽部 副施設長)
- 27 「世田谷防災マニュアル」  
宮崎猛志 (NPO法人国際ボランティア学生協会)
- 31 「漆器を日常の暮らしで使うということ」  
桐本泰一 (輪島キリモト/桐本木工所)

## 生活工房でつくったもの

- 65 生活工房の美味しいレシピ
- 68 ワークショップ・レビュー
- 70 生活工房グラフィックデザインギャラリー
- 76 生活工房データベース
- 78 生活工房施設ガイド
- 80 協力先一覧

## 事業報告 展覧会

- 34 日常/非日常展 世界の明日につながるデザイン
- 35 異郷 西江雅之写真展
- 36 日本の伝統文化と歳時記 vol.3
- 37 7つの海の手しごと《第3の海》地中海とトルコのイーネオヤ
- 38 アトリエjiwaのじわじわjiwa展
- 39 JAPONDER 9 第9回留学生研究発表会
- 40 アトリエブラヴォ展覧会
- 41 アトツギ展 山と里、庄内に学ぶ
- 42 DAYS JAPAN 写真展 地球の上に生きる 世界の未来をつくるために
- 43 14歳のワンピース展
- 44 地球のいまを知る インフォメーショングラフィックス展〈環境編〉

## 事業報告 ワークショップ

- 46 中学生次世代車教室
- 47 暮らし・うるし・研究室
- 48 みんなのなまえてアニメーション
- 49 分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう!
- 50 DJ体験教室 SETAGAYA★MIX2012
- 51 14歳のワンピース  
「触れる地球」を体感しよう!
- 52 生命をつつむ未来繊維2「いつもを運ぶ衣服」

## 事業報告 セミナー/イベント

- 54 地球に触ろう、希望の地球を語ろう!
- 55 知の航海2012 ぐるぐるエネルギー
- 56 朗読講座「豊かなことばの世界」

## 事業報告 地域と市民活動

- 58 おはなしいっぱい
- 59 世田谷アートフリマ
- 60 第3回世田谷区芸術アワード“飛翔”
- 61 災害対応図上訓練・もし大規模災害が起きたら
- 62 市民活動のためのファンドレイジングセミナー
- 63 市民活動支援コーナー  
世田谷市民活動支援会議(ネッティ)
- 64 第21回国際交流 in せたがや2013  
ギャラリーカフェくりっく壁面展示





# 新しい仕組みを構築し、途上国にテクノロジーを届ける

中村俊裕（米国NPO法人コペルニク共同創設者兼CEO）インタビュー

インタビュー・文：大城譲司 写真：植本一子



## 途上国支援の新しい仕組み

——中村さんは、10年以上、国連職員として活動していたとのことですが、2010年に非営利組織であるコペルニクを立ち上げます。その後、2012年には国連を辞め、コペルニクの活動に専念することになった。その理由を教えてください。

**中村俊裕（以下、中村）** 僕が所属していたのは国連開発計画。これは国連最大の開発援助機関で、177の国と地域で活動を行っています。具体的には、民主的ガバナンス、危機予防と復興、エネルギーと環境、貧困削減、HIV/AIDSといった分野での援助ですね。

——中村さん自身、開発途上国で多くの経験を積んできたわけですね。

**中村** ええ。独立直後の東ティモールでは国家の基盤づくりに関わるプロジェクトに参加しましたし、スマトラ沖地震の直後はインドネシア事務所の津波復興チームに合流し、災害復興に協力しました。

——国際的かつ中立的な組織だからこそ、途上国の援助が可能だったわけですね。けれども、中村さんはNPOを立ち上げた。それはどうですか。

**中村** 国連の開発援助はトップダウン方式、つまり、途上国の政治家たちと政策議論を重ねながら、国政レベルでの最適解を見つけ出し、いくというやり方です。もちろん、従来の方法論

にも意味はある。しかし、もっとも援助を必要としている最貧困層に、はたして支援が届いているのかという根本的な疑問があった。

——国連で働いていたからこそ、国連のやり方だけでは解決できない課題があるということに気がついたわけですね。

**中村** 現在、コペルニクが展開しているビジネスモデルなら、より革新的で、より直接的な解決策が提示できると思ったんです。具体的には、「テクノロジーを持つ企業や大学」、「寄付を行う支援者」、「NGOなどの現地コーディネーター」、この三者をきちんと結びつけること。それによって、テクノロジーを本当に必要としている人が、その恩恵を安価で享受できるようにする。そう考えたんですね。

——中村さんはビジネスモデルという言い方をしましたが、そこは重要なポイントではないでしょうか。コペルニクは「ビジネスモデル」として提示すると同時に、ITを最大限に活用し、「プラットフォーム」として機能するように設計されている。

**中村** ええ、コペルニクが目指しているのは「新しい仕組み」です。2013年2月で創設3年目を迎えました。現在までに、65件以上のプロジェクトが行われました。支援実績は、13か国95000人以上ののびります。

## 人と人を結ぶソーシャルデザイン

——気軽に、と言うと語弊があるかもしれませんが、オンラインで展開している分、寄付をするという行為自体のハードルが格段に低いという印象を受けます。開発援助のあり方としては画期的で、まさにコペルニク的な転回です。

**中村** 支援者は、いくつものプロジェクトの中から、自分の興味のあるものに寄付することができる。さらに、いただいた寄付金をどういったかで活用したかということも、しっかりと報告しています。

——「寄付はしたものの、実際、何に使われているかわからない」という事態は多々ありますからね。

**中村** 支援者にいろいろな「選択肢」を与えること、それから、プロジェクトに「透明性」を与えることは重要です。

——全体的な傾向としては、どういう解決策が求められているのでしょうか。

**中村** 圧倒的にエネルギー関連の事例ですね。たとえば、電力が普及していない地域では、灯油ランプを使用することが多いのですが、ソーラーライトを使えば、灯油代が不要になる。少なくとも、低く抑えることができる。そうなる、いままで灯油に回っていた分のお金を、食費や教育費に回せるようになります。

——ソーラーライトというテクノロジーが、生活環

中村俊裕（なかむら・としひろ）

1974年生まれ。米国NPO法人コペルニク共同創設者兼CEO。京都大学法学部卒業後、ロンドン大学政治経済学院（LSE）にて比較政治学を専攻。国連機関で途上国の支援やスマトラ地震（2004年）の被害地の復興などに従事。2010年にコペルニクを立ち上げ、新たな途上国支援の仕組みを提供。現在はインドネシアを拠点に活動する。 <http://kopernik.info/ja/>



# 重要なのはあくまでも「途上国向けのテクノロジー」

境の改善を強力に支えているわけですね。

**中村** 重要なのは「先進国向けのテクノロジー」ではなく、あくまでも「途上国向けのテクノロジー」だということです。途上国においては、電気がない、あるいは収入がないなどという制約が山ほどある。そうした条件の中で、いかにして効果を上げるか。それを考えることが大切です。

—— これまでは、そのための知識や技術を持っている研究者やエンジニアたちは、開発援助の現場と直接的な接点を持てなかった。けれども、コペルニクというプラットフォームを利用すれば……。

**中村** それが可能になる。  
—— 途上国のニーズは、どうかたちで掴んでいるのですか。

**中村** 現地で活動しているNGOなど、コペルニクの活動に賛同しているパートナーから上がってくるニーズをもとにしています。現場のことは現場がいちばんよく知っていますからね。

—— コペルニクの活動が面白いのは、バラマキ型の援助ではないということですね。援助だけでも無償で配布するわけではないという。

**中村** 一方的な援助ではなく、将来的には最貧困層が自立できること、そのための仕組みが自発的に生まれることが大事だと考えています。そのためには、多少なりとも、現地でお金が回

る仕組みにしている方がいい。

—— 新しいアイデアと新しいシステムを導入し、人と人の結びつきを効率的に実現しているという意味では、ここ数年、大きな注目を集めているソーシャルデザインの実践例のようにも見えます。

**中村** いわゆるデザインという領域を特別に意識したことはないんですけどね(笑)。できることを、できる範囲でやる。その積み重ねが世界を変えていくのだと思っています。

(3月8日、日本橋にて)

## コペルニクのプロダクト

途上国のために開発されたプロダクトの一例を紹介します!

**Product 1** 水運びのグッドアイデア!  
**Q Drum**



途上国において水運びは女性や子どもの仕事。信頼のおける水源から、1日に何度も水を運ぶのは重労働です。最大50リットルの水が入るドーナツ型のプラスチック容器は、耐久性に優れ、穴に通したロープを引いて転がすことで、水運びの負担を軽減します。

**Product 2** 途上国の暮らしを変える明かり  
**d.Light S250**



電気が灯ることで途上国の暮らしは大きく変わります。このソーラー充電式のライトを使えば、ランプに使う灯油代が削減され、その分で食糧や教科書を買うことができます。子どもたちは日没後も勉強ができるようになり、未来に様々な希望が広がることになります。

**Product 3** 衛生的な水を生む!  
**Nazava Bening One**



水の衛生は途上国の重要課題です。2つのタンクの間にあるセラミックフィルターは、バクテリアの除去や有害な化学物質や臭いを吸収し、1時間あたり2リットルの水をろ過します。フィルター1個で7,000リットルの水(家庭で使用する飲料水2~3年分)が浄化可能。

**Product 4** 度数を変えられるメガネ  
**AdSpecs**



訓練を受けた眼科医が少ない途上国では、人々に正しい度数のメガネを処方出来ないことも問題です。アドスペックは「自己屈折」を利用し、度数を調節するメガネ。プラスチック膜でできた2枚のレンズの間に注入するシリコンオイルの量によって度数を調節します。

INTERVIEW

2

MASAYUKI NISHIE

## 文化をたずねて

西江雅之(文化人類学者・言語学者)インタビュー

インタビュー・文=岡澤浩太郎 写真=TAKAMURADAISUKE

—— 旅は風まかせ

—— 昨年写真展「異郷」や同名の書籍の準備の間、「こんなに日本にいるのは珍しい」とおっしゃっていましたね。

**西江雅之(以下、西江)** 4ヵ月も日本にいたのは何年かぶりです(笑)。

—— この2、3年、どこかに行かれましたか?

**西江** 展示会の3日後くらいに中国・厦門へ行っただけです。タイ、モロッコ、パプアニューギニア、北極にも行っただけで、国内では鹿児島、熊本にも2、3回行きました。ただ、わたしの場合、どこかに行くことがあってもそれは用があるから行っているだけなんです。国内も海外もすごい回数行っているし、みんなからすれば考えられないようなところも行っています。



ど、それは旅ではないんですよ。  
——旅ではない、というの？

**西江** 旅といっても、それには「旅」と「旅行」と「ツアー」があります。ツアーは出発地から目的地まで。そしてまた出発地までの途中で何をするかすべて保証されている。旅行は目的地に着くまでは保証されていきますけど、そこから先は何をしても好きにできる。でも旅は、道中なんですよ。『東海道五十三次』でも、京に上るまでに大井川で人足に襲われるかもしれない。



### 異文化は自然体で受けとめる

——異なる文化圏に行けば文化の衝突が起こることもありますよね。

**西江** いや、それはたいしたことはありません。でも「こうすればこの人と仲良くなる」なんてことは何もありません。僕の場合は、ひとつは自分の人柄、ひとつは運です（笑）。もうひとつは、目の前で何があっても「どうってことない」という無責任さ（笑）。

——それは「深刻に考えない」ということですか？  
**西江** どこかの国の奥地へ行けば、1日もしないうちに「こんなにハエがいるんだからなんとかしなさい」と言いだす人もいて、衝突が起こるんです。これはまずいですね。そのひとりで現地の人は驚きますよ。次には怒りますね。自分にとっては普通のことなのに「こんな生活しちやいけない」と言われたらね。そういう時には、ここは「こんなもんか」という感覚がないとね（笑）。  
——そう考えると少し不自由な気がします。

**西江** 文化とは制約のことです。制約を取り払うことができないのが人間なんです。例えば、僕には自分がイヤだと思った人を殴り殺せる自由はあるわけです（笑）。でも人間は「それではいけない」という制約をつくらなければならない。自由と制約を兼ねて、それが社会をつくる。自由と制

## どこへ行っても地球はわが家。異郷で出会った友たちが懐かしい。

かし、着いたら目的が終わる。もうひとつ「放浪」がありますが、これは自分の心の目的地に行こうとする。でもその目的は自分の心のなかにあるので生涯放浪し続けるしかない。僕の場合はこのなかで、旅をほとんどしたことがない。旅行と放浪が混ざっているんです。でも一昨年から、北極に行つたんですよ。エストニアの大きな国際会議に出席したんですが、4、5日暇な時間ができたので、「だったら北極に行こう」と。それはある意味では旅でした。

——思いつきで、エストニアから着の身着のまま北極に行つたんですか？  
**西江** ほとんど何も持って行かなかった。そうしたら寒くて（笑）。真夏の北極圏だったから氷は溶けていて、川で4、5歳の子どもが泳いでいるんですよ。それで、井戸端会議をしているお母さんたちに「寒くないですか？」と聞いたら向こうが驚いて、「こんな普通ですよ。川が凍つたら、氷を割って泳ぐんですよ」って。育ちが違うんですよ（笑）。

——やはり国や地域で考え方や価値観は違いますよね。  
**西江** でも世界的に見れば、例えば日本人とアルジェリア人には文化の違いが少しあるだけです。夜は寝るし、何か食べるし、やっていることはだいたい同じ（笑）。

約の間で人間は矛盾していて、そうした矛盾の体系が文化なんです。みんな「文化は良いものだ」と思っていますが、文化には良いことも悪いこともある。音楽や美術は文化のほんの一部で、文化の大半は他者の目から見れば馬鹿馬鹿しいし、原理的には無意味なものなんです（笑）。人間は無意味なことをする動物だけど、そんなことを思いもよらずに美しい価値を求めようとして生きていますよ。

——確かに、絵画でもルーズソックスでも「だから何なの？」と問われると答えに窮します（笑）。  
**西江** そう、人間は得体が知れない動物ですよ。例えば砂漠にある軍隊の小屋にひとりであることがあったんですよ。そうすると、夜中に小屋の戸口で音がする。「獣かな、人かな」と思うわけです。そして「人かな」と思った時に、「生きるか死ぬ

——その少しの違いが均質化や喪失を迎えている、とよく言われていますが。

**西江** この1000年は、もつと前の数百年から見れば変化のスピードが早すぎるんですよ。子どもだって持っている携帯電話やインターネットなどの通信が、世界規模で普及してしまった。そうした情報機器の普及が、人間の文化にもたらす影響ははかり知れないものです。

——均質化する一方でスピードの速さが喪失に至るまでの速さにも拍車をかけているのでしょうか。

**西江** 例えば、10数年前なら女子高生は全員ルーズソックスを履いていましたよ。履いていなかったら「私は女子高生じゃない」と悩むくらいでした。でもいま履いている人なんて誰もいませんよ。たった10数年ですよ？ それで、いまかつて女子高生だった人たちは「なんであんなことしていったんだろう」と（笑）。なぜそうしていたのかと言うと、「みんながするようになったから」。一番先端にあるものが全体を揺るがして、自分もやらないと「みんなから遅れている」という錯覚に陥るだけです。

——では「異端」はあり得るんですか？  
**西江** 異端とは意味のある少数派、文化の一部です。例えば、釣りの雑誌なんて世界の全人口からすれば異端ですよ。だけど釣りを支えている人はいっぱいいる。でも全然別の集団に行つたら「釣りが好きだなんて変わっていますね」となる（笑）。

か、殺すか殺されるか」という判断が平気で起こってしまう。だって「こんばんは」と言つてなかに入ってきた人が、突然自分を殺そうとすることもあるわけです。だから一番恐ろしいのは人間です。人間は人間だけを信じて生きていくと同時に、人間ぐらい信じられないものはない。この矛盾が重なって生きていくわけです。——そうすると、相手がこの国の人だろうと自分がどこにしようかと変わらなくなりますが、頻繁に使われている「異郷」という言葉にはそうした意味が込められているのだと解釈しています。  
**西江** 「異郷」という言葉は国境の外側の外国や知らない土地を指します。でも「異郷」は「自分の皮膚の外側はすべて自分ではない」ということです。それどころか、本当に探つていけば自分で自分何なのかわからないくらいの世界に生きています。だから外国に限らず、どこにいても異郷なんです。（1月29日、蝦蟇屋敷にて）

西江雅之（にしえ・まさゆき）

1937年生まれ。文化人類学者・言語学者。アフリカ諸語やビジン・クレオール語研究の先駆者であり、東アフリカ、カリブ海域、インド洋諸島を中心に言語や文化を研究。現地の人びとの世界に自然と溶け込むことから「ハダシの学者」と呼ばれる。

お部屋から  
発掘！

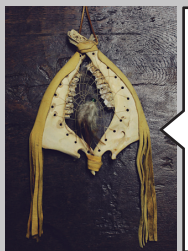
## 異郷みやげ

ライオンの魂（カンバ族/ケニア）



オスライオンが死の直前に吐き出すと伝えられている貴重な玉。現地では家1軒と同価値。「これを持っていると、絶対に病気になるいとか、悪魔に取り憑かれぬ」と。譲り受けたのは西江さん、3日間人に狙われた。

ドリームキャッチャー（ホピ族/アメリカ）



動物のアゴが2つ組み合わさり、間をクモの巣状に糸が張られ、「寝ている時にこれを頭の上に置くと、悪霊が引っかかり、悪い夢を見なくなる悪夢除け」。日本でも同名の装飾品を目にするが「これが本物」とのこと。

物語の板（セビック族/バブアニューギニア）



民話のような物語を木彫りで表した板。内容は大体お決まりのものだが、「よく見ると残酷で首を切ったりしていたり、人魚が出たりもする」。サイズの西江さんも持ち変えるのに苦労した一品。

西江雅之写真展・異郷

『』の事業報告は P.35 をご覧ください。







## ジャーナリストの視点から

広河隆一（フォト・ジャーナリスト／DAYS JAPAN 編集長）

2013.1.27 (sun) 14:00-15:00 @ SEMINAR ROOM A

構成・影山裕樹

## ジャーナリズムとは何か？

ジャーナリストとは、医者であるとか、教師であるとか、弁護士というものに近い、人間的で本質的な価値が付与される概念だと思います。子どもが新聞記者や警察官に憧れるのと同じように「ジャーナリスト」というアイデンティティには、単に雑誌で働いているだとか、テレビで働いているという辞書通りの意味を超えた「志」のようなものがあると思います。

日本にはジャーナリストを養成する学校がほとんどありません。というのも、大学や写真学校は、新聞社やテレビ局が求める人材を輩出するのが目的であって、本来の意味での「ジャーナリズム」を教えてくれるわけではないからです。たとえばイラク戦争のとき、アメリカの大手メディアのジャーナリストが現地実際に起きている事実を

## ジャーナリズムとは、人間の問題を伝える職業である

隠蔽する方便として、「自分はジャーナリストである前にアメリカ人である」と言いました。これは日本でも起こりうる事態であって、大手新聞社やテレビ局では、自国や自社に利益のある報道をすることがよしとされるからです。

では本来のジャーナリズムのアイデンティティとは何でしょうか。ジャーナリズムとは、人間の問題を伝える職業である。人間の知る権利を守るための職業だと思います。それはどこかの国の国民というアイデンティティを超えた、より大きな価値に裏付けられているものなのです。チェルノブイリ原発事故の真相を知るために現地に入ったとき、私はジャーナリストが何をしなければいけないかを痛切に感じざるをえませんでした。一回目は人々に話を聞きにいき、被害の状況を知ることになる。しかし二回目に訪れたときには、薬も持たずに「またお話を聞かせて下さい」というわけにはいきません。ジャーナリストである前に、人間だからです。

ンティティを包みこむ、より大きなアイデンティティなのだと思います。福島の話をする、私は3・11があつた次の日の深夜に現地に入り、13日の朝に双葉町に向かいました。報道では安全と伝えられていたのですが、私たちが持ち込んだ放射能測定器はメーターが振り切れていました。チェルノブイリでも使っていた測定器で、いままで一度も振り切れた事がなかったんです。そこで私が取れる行動は、測定器が映つた写真を見せながら、町に戻って来る人たちを引き返させることだけでした。健康に影響がないと言われ、ペットに餌をやりきたり、貯金通帳を取りきたり人々を町に入れないこと。ここで私たちがジャーナリストとしてできることはなにもない。しかしだからこそ、人間としてできることをすべきだと思うのです。

私たちは『DAYS JAPAN』

でフォト・ジャーナリズムの学校をやっているのですが、学生たちに「ジャーナリストになりたい人はいますか？」と尋ねると、みなさん手を挙げます。ただ、実際のところは大手メディアの社員になり

取材を進めるなかで、甲状腺ガンと白血病を併発した女の子と出会いました。お父さんはガンで亡くなり、その翌年に病気が発覚して、髪の毛も全部無くなっていた。彼女は家から外に出るのを大変いやがっていました。カツラは持っているけれど、首に手術の痕も残っている。放射能を浴びたと差別を受けるのが怖かったんですね。「希望がない」と部屋にこもりきりだったので、美術館や映画館に連れて行ってあげることになりました。しばらくの間、父親代わりになってあげたんです。その後、彼女は大学を受験し合格、卒業して現在その先生をやっています。

その頃から私たちは、取材だけでなく救援活動を始めるようになりました。子どもの健康のために政府にかけあつて尽力している現地の大学教授との出会いによって、子どもたちのための保養所を建設することになったのです。日本からボランティアを連れて行って七夕をしたり、医者を通していつて甲状腺の検査も行いました。その経験が、現在福島の子どもたちを受け入れる沖繩の保養施設「沖繩球美（くみ）の里」建設にも大きな影響を与えています。

## アイデンティティを超えて

ジャーナリストである前に、人間であるということ。それは、ジャーナリズムというアイデンティティを超えて、誰に何を伝えなければならぬか、本当に考えているのだろうか。そこでは「ジャーナリズムとは、あなたが考えているよりも責任が重く、ゆえに誇り高い仕事なんです」と言い聞かせるようにしています。事故が起こった瞬間に何ができるのか。ただ取材して記事を書けばいいわけではないんです。よく使ったとえ話ですが、フロントガラスが泥で見えないときに、どこから「安全だからアクセルを踏みなさい」というささやき声が聞こえる。しかし「止まれ！ 目の前に子どもが立っている」と知らせるのがジャーナリズムの役割だ。また、かつてその道を選んだときに何が起こったのかを教えるのが歴史家の仕事です。このようにすべての職業が——それは母親でさえも——それぞれのアイデンティティを超えて、人間であることを問われているのだと思います。

（2013年1月27日の講演より）

広河隆一  
（ひろかわ・りゅういち）

1943年生まれ。1967年早稲田大学卒業後、イスラエルに渡り中東戦争に直面。1970年に帰国後もパレスチナの中東問題とチェルノブイリの核問題を中心に取材を重ね、IOJ世界報道写真コンテスト大賞、講談社出版文化賞、早稲田ジャーナリズム大賞、土門拳賞など受賞歴多数。チェルノブイリ子ども基金の設立者。

<http://www.daysjapan.net/>





column 1

## “どうにもならねえ” 庄内ライフ

文＝成瀬正憲（山伏、日知舎代表）

庄内へ移住してもうすぐ5年になります。その前は福井県に2年いたので、在学中東京にいた時間より地方にいる時間の方が長くなりました。

よその土地に来たなあ、と実感するのは言葉です。方言のことではありません。馴染みある言葉がその背景を持つというか。例えば、庄内でよく聞くのが「どうにもならねえもんだ」。あまりに頻繁に、あまりに躊躇なく口にされるので、この潔い諦めは一体何に起因するのだろう、と不思議に思っていました。

冬になってわかりました。途方もない雪がやってきたのです。いくら揺いても、下ろしても、容赦なく、とめどなく降り続ける雪が。除雪を怠れば家が潰れますので、人は否応なく向き合わざるをえません。辛抱しても、努力しても、人の力ではどうにもならない、受け入れるしかないものに。あっけらかんと口にされ

る先の言葉からは、怪物のような雪と人が不離一体であること、それを遠ざけず受容して、ポジティブに転換していく知恵が伝わってきます。

そんな雪もやがて融けゆき、風に泥の匂いが混じると春が訪れます。溪谷では一挙に山菜が顔を出し、平野を潤す雪融け水や、吹き抜ける風や、田に揺れる早苗はじつに清々しく、あの過酷な日々を忘れてしまうほど。どうにもならない雪は、山野河海のありとあらゆる存在に、惜しめない恵みを与える源となるのです。「あの雪があればこそ春なんだや」。そう語る顔は喜びに満ち、現象の背後にあるものへの手応えや、季節の巡りをともに祝福することの滋味を感じさせるのです。

地域に住んでいると、感知できる世界があります。ひとつの言葉に土地と人が交差する風景が浮かび、一葉の自然に気配が表れ、人の息遣い

に願いが聞こえるように。そんな具合に自分の身体が整えられてくるのです。山に伏す、とはこういうことなのかもしれません。

庄内での時間は、同じ土地でともに四季を重ねることの深みを教えてくれました。移住者が土地の人と「今ここ」を囲み、「これから」に踏み出すための知恵は、なんと連発される「どうにもならねえ」にあったのです。「地域活性化」以前の、地域と向き合う立脚点や、問いの所在に気づく感覚は、誰にでも出来る単純な積み重ねの中で形づくられるのだな、と思います。

雪はこれからも地域に降り続けるでしょう。自然と人間は分かれようがありません。そのどうにもならなさから地域を見直すことができれば、地吹雪の向こうで柔らかに綻び、射してくる光もあると思うのです。

成瀬正憲（なるせ・まさのり）

大学在学中に出羽三山に出会い、2007年羽黒修験「秋の峰」で山伏となる。2009年山形県に移住。羽黒町観光協会職員として地域活性化事業に携わり、2012年日知舎設立。山伏修行の場づくり、聞き書きや芸能による表現活動、山の食や手仕事によるコミュニティ・ビジネスを行っている。

イラスト＝タナカマコト



上) オマルは1948年に難民となり、故郷に戻ろうとして何度も逮捕・追放を繰り返した。(ジェニン難民キャンプ・西岸地区・パレスチナ/2002年)  
下) 福島第一原発から7キロの地区で防護服を着て行方不明者の捜索をし、遺体を運ぶ福島県警の警察官たち。(2011年4月15日)  
写真＝広河隆一





# 日本型エコロジーとしての「エネルギーゴロジ」

中沢新一（思想家／人類学者）

2013.7.1 (sat) 14:00-16:00 @ WORKSHOP ROOM B

構成 | 明治大学 野生の科学研究所

## エネルギーゴロジとアナロジ

現在エネルギー政策議論で取り上げられているのは、エネルギー効率、生産量、費用、料金と言った数値化できる問題がほとんどであり、エネルギーに関しての学問はその歴史や仕組みを科学的・客観的に解明することに特化している。しかしわれわれがエネルギーを扱う時、そこには現代科学の方法論とは異なるメカニズムを持つ人間の「心」の問題が入り込んでくる。従来のエネルギー論に限界が見える今必要とされるのは、経済活動、生活、芸術活動と一体になるエネルギーの新しい学問「エネルギーゴロジ」である。エネルギーについて「秩序」という名の示す通り、エネルギーでは自然界に存在するエネルギーの秩序を保とうとする

ビエンス特有の感覚能力と思考方法が顕著に表れている。デサナ族にとってものを認識することとはものの響きを感じ取ることであり、この世界にあるものはすべて共鳴し合っている。その響きとは「喩」に他ならないが、それが表現される時は記号ではなくシンボルが用いられる。記号とは一対一の差異のない関係であり響き合いを持たない。一方シンボルは表すものと表されるものの中に、ある類似性を持ちながらも、同時に差異も保っているため響き合いが発生する。同じ「下」の音を

## 今の社会が目指すべきは、「喩」的構造と倫理性を持つ日本型エコロジー

人間の心の働きが重要な位置を占める。

エネルギー文明史を振り返れば人類は160万年前に火を獲得しているが、この時点の人類にはまだ現生人類と同じ心の働きは見られない。現生人類であるホモサピエンスの特殊性は、その近縁種とされるネアンデルタール人と比較するとよくわかる。この2つの人類には外見のな違いはほとんどなく、どちらも似たような社会構造を持っていたが、その脳の構造には決定的な差があった。特化した別個の認識機能を複数持つネアンデルタール人に対し、ホモサピエンスは大脳に起きた何らかの変化により、異なる認知領域をつなぐニューロン組織と、領域間を行き来する流動的な知性形態を獲得していたのだ。前者は差異を見極め分類する能力を有していたが、後者は分類されたものの中に更に類似性を見出し、第三の意味を生み出す能力を持つ

重ねても「下」のままだが、オクターブ違いの「下」ならば共鳴するのと同じである。

このようなシンボル能力はいくつかの抽象レベルにわたることができる。それは(1)隠喩・換喩のような簡単なアナロジ、(2)類似による人間の性生理的な意味づけ、(3)生物境界の性エネルギーの喩、(4)太陽や星座の運行を巻き込む宇宙エネルギーの喩であり、後にいくほど高度になつてくる。(1)の隠喩は似たもの同士を、換喩は近くにあるものを、同一視する喩である。(2)は各地に伝わる男根信仰や、男女交合を魚獲りに例えたりする慣習が当てはまる。(3)は性エネルギーを通じ動物と人間の世界の共通性を見出す思考であり、ここでは互酬性が発生する。互酬性(Reciprocity)とは、お互いがお互いを補うことを意味する。例えばA部族からB部族へばかり贈りものを行うとエネルギーがアンバランスになるため、B部族はA部族へお返しをしなければならぬ。このような贈与が行われるのは喩の能力によつてA部族とB部族の間に共通性があると考えられるためである。同じことは人間と自然の関係にも当てはまる。儀式や祭りは、人間が動物や穀物を消費するばかりでは森

つていた。ホモサピエンスの特性とは、この「喩」(アナロジ)の発生を可能にする思考能力であり、宗教や芸術の発生はここからはじまったと考えられる。この能力を折口信夫は「類性能力」と呼んだ。

「喩」を通して共通項を持つ事物や現象をより高いレベルで統合できるようにすると、世界をよりコンパクトに整理して認識することができる。並列されていた別個のものを重ね合わせることもできる。例えばヒンドゥー教では聖なる動物である牛を食べることはご法度だが、水中で生活する水牛は「魚」と見なし食べることが許される。つまり細かな差異を取り上げ、ひたすらカテゴリーを増殖していくのではなく、無視できる差異は無視し、ある種の同一性を通してまとめいくことができる。このように、ホモサピエンスには旧来の無限を数え上げるアルゴリズムと、「喩」(アナロジ)を用いる2つの能力が備わっていることになる。

### 日本型エコロジーとは？

この能力を持った人類がどのように世界を眺めていたかという記録が、人類学とよばれるものだ。17世紀頃から学者たちは、主に未開部族の中で行われている思考方法や生活形態を丹念に採集しはじめた。その中でもライヘルド・マトフが研究したデサナ族の世界観にはホモサが疲弊し宇宙のバランスが壊れるとする考えから、自然に捧げるお返しとして始まった文化である。夏至や冬至の時期に定期的に儀礼を行うことで、実際に乱獲を防がれ、自然と人間の間には秩序とモラルが保たれていた。

このエネルギー使用に関するバランス感覚は近代、エコロジー思想に結晶しているが、ホモサピエンスはその登場時から喩の思考によつて、宇宙の循環と資源の有限性を認識していたのだ。しかし現代科学にはこの喩的構造がセットされていないため、法規制など外部からのストッパーをかける必要がある。これがヨーロッパ型エコロジーの基本的な考え方だ。

今の社会が目指すべきは、科学自体に喩的構造を持たせ、内発的に倫理性を持ちうるよう変えていく日本型エコロジーである。これは南方熊楠型エコロジーと言い換えてもよい。なぜ日本型かと言えば、日本文明にはホモサピエンスの思考方法が、近代技術に接木されながらも現代まで維持されてきているからだ。

原発に象徴される西洋型の文明がきしみを上げる今、われわれはこの日本型エコロジー、エネルギーゴロジの考えから、地球が直面する問題を漸進的な方向に乗り超えていかななくてはならない。(2012年7月1日の講演より)

中沢新一（なかざわ・しんいち）  
1950年山梨県生まれ。明治大学野生の科学研究所長・くくのち学舎長。宗教から哲学、芸術から科学まで、あらゆる領域にシなやかな思考を展開する思想家・人類学者。





# 14歳のワンピース

## DOKI DOKI 撮影会

自分たちでデザインしたテキスタイルのワンピースを身に着けての撮影会。フォトグラファーの池田晶紀さんとともに自分たちで写真を撮り、モデルも務めます。プロ仕様のセットの中で、最初はハニカミながら、池田さんの合の手に乗せられて、徐々にほぐれていく表情。そして、自分の心模様を写したワンピースを体いっぱい表現しました。ここでは池田語録で撮影の様子をプレイバック!!!

撮影・モデル=14歳のワンピース★

MODEL ④ M さん  
デザインテーマ：自由



池 水玉のひとつつて感じ  
私はびちんくん

池 アリーナー! 二階席~!

池 内的な私と外的な私

MODEL ⑤ I さん  
デザインテーマ：弾けます!



池 自分の中の、弾けるをやってみよう

池 まだまだ、せーの、どーん!

池 恥じらいを捨てて!

池 自分は棒になる

MODEL ⑥ K さん  
デザインテーマ：おいしい



池 まず鍋を用意して温めます  
玉ねぎをみじん切りにします

池 悪いことしちゃった、てへへ

池 一個食べちゃって、うふふ

MODEL ① M さん  
デザインテーマ：燃える炎



池 風になって、  
燃えたぎる炎になるわたし

池 ジャンプしてみよう

池 関節を五か所くらいはずして

池 ハートブレイク!!

MODEL ② A さん  
デザインテーマ：恋愛



池 恋をするって素敵なんだろうな  
って気持ちだよ  
フワフワした感じ、いこうか  
雲を歩くような感じ

池 こっち側の山に向かって、ラー!

池 ハートやおこうよ、  
ギャルっぽく  
それやったらニコニコでしょ

池 恥ずかしくて  
顔を隠したくなる気持ち

MODEL ③ H さん  
デザインテーマ：花月桜鳥



池 桜の花びらだから、手は風を感じてよ

池 どすこい!

池 餅つきだから、餅になろう

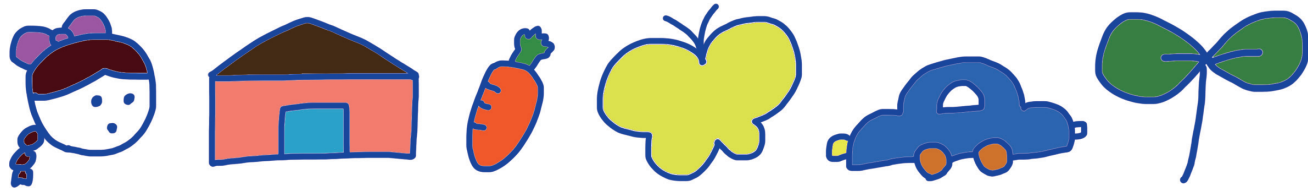
池田晶紀 (いけだ・まさり)  
1978年横浜生まれ。写真家。1999年自ら運営していた「ドラックアウトスタジオ」で発表活動始める。2003年よりポートレート・シリーズ「休日の写真館」の制作・発表を始める。2006年個人スタジオ「ゆかい」設立。2010年スタジオを馬喰町へ移転。オルタナティブ・スペースを併設し、再び「ドラックアウトスタジオ」の名で運営を開始。国内外で個展・グループ展多数。



ハイ、チーズ!

私たち、おばかで、かわいい、  
びちんくんの、14歳のワンピース★  
撮影=池田晶紀 (ゆかい)





column 2

## 社会へつなぐ、幸せのカタチ

文＝原田啓之（JOY倶楽部 副施設長）

福岡空港の近くにあるJOY倶楽部の施設では、週に5日、ダン、ダダンとリズムを刻むミュージックアンサンブルの音、シュッシュと思いの速さで動くアトリエブラヴォの筆の音が響いています。知的障がい者の文化活動による社会参加を掲げ、発足以来10年、彼らを取りまく福祉のイノベーションを目指した活動を行っています。

アトリエブラヴォにとって10年の節目となる2012年の秋に、「きょうはなに描くとー？ 街と人と絵描きたちのオシャレな関係」と題した展示会を、生活工房にて実現することができました。福岡のアトリエブラヴォと東京の生活工房、この2つの組織を繋いだのは、イラストレーターの小池アミイゴ氏です。アトリエブラヴォでは、アート活動を福祉の仕事と位置付け、これまでにギャラリーでの展示やデザインの受注制作、公共事業での立体制作、

ライブペインティングやワークショップなど様々な仕事を行い、たくさんの方々と出会ってきました。小池アミイゴ氏もその中の一人です。私たちの周りには、アトリエブラヴォ・メンバーの絵に魅力を感じ、そこから、彼等の生き方やユニークさに、さらに深く魅了される方たちが多く居ます。

これまでにJOY倶楽部は、表現すること、そして施設に在籍するメンバーを、社会（施設外の人たち）へ繋げていくことを大切にしてきました。今回の展示のお話を頂いた時も、「作品だけを展示するのではなく、メンバーと繋がっている人たちと展示会を作り上げよう」ということになり、美容師、画家、メイクアップアーティスト、服飾関係、ギャラリーオーナー、靴作家、映像作家など、たくさんの方が協力してくれました。

彼らを社会へ繋げていくこと、そして彼らが幸せになるということを考えた時に、「彼らの求める幸せは何だろう」と立ち止まります。何が幸せかは一人ひとり違います。お金を稼ぎたいと思う人もいれば、絵をもっと描きたい、仕事で充実したいと思う人もいます。それぞれの幸せのカタチを掴むために、それを支援する私たちは「社会と繋がる＝施設外の様々な人たちと繋がる」ことがとても重要な一つの手段だと感じています。

今回の展示会では、8,000人を超える多くの方たちにご来場いただきました。繋がりをテーマとした今回の展示でこれらの繋がった人たちと、これから、その繋がった先に何かあるのかということ、JOY倶楽部としても、改めて考えさせていただける展示会でした。

アトリエブラヴォ展示会

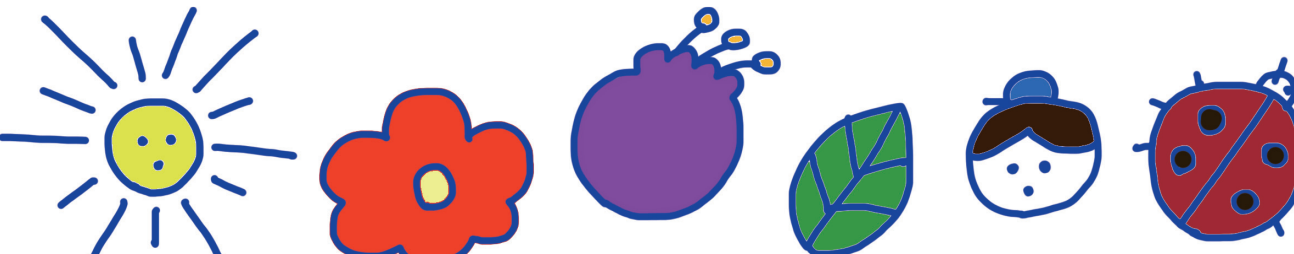
23

『』の事業報告は P.40 をご覧下さい。

社会福祉法人JOY明日への息吹 障害福祉サービス事業所JOY倶楽部  
文化活動による社会参加から、知的障がい者の自立支援を目指す施設として2002年に開所。音楽部門の「ミュージックアンサンブル」と、アート部門の「アトリエブラヴォ」に、現在、40名のメンバーが在籍して活動している。



アトリエブラヴォの作品より  
上左) 山下聖子「フォークとスプーン」(2012年/23cm×18cm/紙にアクリル絵の具、色鉛筆)  
上右) 近藤純平「きりん③」(2012年/40.5cm×32.5cm/紙にアクリル絵の具、オイルパステル)  
下左) 樋渡幸大「マレーグマ」(2011年/40.5cm×32.5cm/紙にアクリル絵の具)  
下右) 小林泰寛「リパティ島にある自由の女神像」(2008年/65cm×54.5cm/紙にアクリル絵の具、色鉛筆)







column 3

## 世田谷防災マニュアル

文＝宮崎猛志（NPO 法人国際ボランティア学生協会）

個人の防災対策の基本は、「最も多くの時間を過ごしている場所で、災害が起きたらどうしよう」から始まります。多くの方は就寝中も含めると自宅にいる時間が最も長いものです。「在宅中」を中心とした防災対策が大切なのはそのためです。

世田谷区には市民団体や地域の拠点、活動空間が数多くあります。そういった場所に集まる方たちで、「ここで災害が起きたらどうする？」というテーマでワークショップをするのも大変有効な防災対策の一つとなります。日常の活動の中で起こる非日常を意識化してみるということになります。

準備するのは「世田谷区防災マップ」「世田谷区地震防災マップ」これだけでも十分です。区のホームページからダウンロードできますが、区役所に行けばマップをもらえます。パソコンが得意な方がいたら「せたがや i-map」という区の地図情報シ

ステムを活用するのもよい方法です。

まずは、拠点となっている施設が地震に耐えられるのかを調べてください。一般的には1982年以降に立った建物というのが一つの基準になります。それ以前の場合は一度耐震診断してもらうことをお勧めします。

次に、「世田谷区地震防災マップ」を見てください。どこにいても震度6の揺れが起こる可能性があることがわかります。機材の固定や転倒防止が必要な場所はありませんか？

さらに、施設の設備である消火器や消火栓、非常階段や排煙装置などの場所や使い方をみんなで確認してみましょう。これらは施設管理者側のスタッフとも一緒に行えると思います。最後に避難行動について図上演習してみましょう。「世田谷区防災マップ」を開き、周辺の防災施設などを確認してみましょう。指定避難所は？ 火災の延焼から

避難するための広域避難場所は？

給水拠点と呼ばれる場所は？ 街にある消火器、消火栓は？ けが人などはどこに連れて行く？ 周辺に危険な場所（古いブロック塀、古い木造家屋、狭い路地など）は？ ……これらの情報を地図上にマークしてみんなで共有していきます。情報がそろったら、どういった備えがいるか、対応方法は？ などみんなで話し合っていきます。家族の安否確認方法や落ち着いてから自宅に戻るルート、家族との集合場所を決めておくなど、この機会にご家庭でも話し合われるようにしてください。

図上演習が終わったら、ご自身の一週間のスケジュールを書き出してみてください。何をしている時にどのくらいの時間を割いているか、割いている時間の多い順に「その時に地震が来たらどうしよう」と想定して対策を考えておくことが大切です。

図上演習が終わったら、ご自身の一週間のスケジュールを書き出してみてください。何をしている時にどのくらいの時間を割いているか、割いている時間の多い順に「その時に地震が来たらどうしよう」と想定して対策を考えておくことが大切です。

### 防災ワークショップ

22 『』の事業報告は P.61 をご覧下さい。

宮崎猛志（みやざき・たけし）

特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会理事、IVUSA 危機対応研究所所長。100回を超える国内、国外の災害救援活動に従事。現場でのスキルを日常に生かすべく防災や危機対応についての講習会やワークショップを行っている。 <http://ivusa.main.jp/>



イラスト＝uzu

HOW TO

## いつもを運ぶ衣服

あなたならどうする？

撮影＝前田景



衣服造形家・眞田岳彦さんが生活工場のスタッフ用ユニフォームとして制作したベスト「プレファブコート・エマージェンシーセタガヤ」。緊急時に、来館者を引率・救護するスタッフが行動しやすい機能や、必要な備品を収納できる機能を備えています。ベストは4個のバッグ（肩掛けバッグ×2/ウェストバッグ/簡易リュック）に分けられ、たくさんものを収納し運ぶことができます。今回、このベストを一般の方に貸出、モニター調査を行いました。みなさんはこのベストで何を運ぶのか、その一例をご紹介します。

モニター2 S.Uさん 女性 27歳

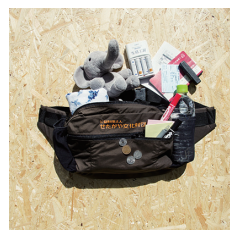
家族用の非常用持ち出し袋としてモニター  
家族構成：私（27歳）・夫（34歳）・子ども（1歳）



栄養補給ゼリー、水、ライト、単3電池（2本）、単4電池（2本）、マスク、カイロ（2個）、タオル



子どものおむつ（3枚）、おしりふき、マスク、カイロ、バスタオル、ティッシュ、写真データ（USBメモリー）



通帳、印鑑、水、タオル、メモ・ペン、小銭、保険証、免許証のコピー、子供のぬいぐるみ、充電電池

コメント：手ぶらになるのが、小さい子どもがいるので重要です。非常時はバッグにして夫と分け、必要なものそれぞれ所持。物が多くなると重くなるので工夫したい！

モニター1 K.Kさん 男性 71歳

森林ボランティアや町内会（避難所）での活動を  
想定してモニター



右)ライト、ラジオ、手袋、手ぬぐい、デジタルカメラ、七つ道具、ラジオ 左)携帯電話、筆記用具、手袋、手ぬぐい



避難所運営マニュアル（A4ファイル）



水（2本）、雨衣、荷造りテープ、救急用具、メジャー

コメント：素材やポケットが多くてよい。暗闇の中でも着られる工夫や、筆記用具用のポケットも欲しい。分けると組立てに時間がかかるのでベストでの活用が好ましい。

### いつもを運ぶ衣服

『』の事業報告は P.52 をご覧下さい。



# 進化する伝統 和紙製造の老舗から

小林一夫インタビュー  
インタヴュー・文IIアイ・エイチ ファクトリー 写真II松本昇大

伝統は守るものではなく、育てなければいけない

2011年からシリーズで日本の伝統文化を紹介している展示において、和紙の持つ伝統と近代に受け継がれる様式美を提案いただいた小林氏に、伝統文化のありかたについて伺った。氏は、現在は出版活動も活発にされながら、海外にむけておりがみを日本の文化として広げるための活動にも尽力されている。

## 《伝統文化とは何か》

——おりがみ会館四代目の文化継承者として、大切にしていくことはありますか？

**小林一夫（以下、小林）** 文化継承の一例として小笠原礼法をあげると、武家の礼法は後継者が口頭で代々受け継ぐものでした。門外不出という意味ですが、時代と共に変化を要するということでもあります。文化は生活の中にあるもので、守ることよりも、育てて広げることが大事だと考えています。

——「おりがみ」の何を大切にしたいですか？

**小林** おりがみを折るのに、安価な紙を使うのと、高級な和紙を使うのと、どれを使ってもよいのですが、まずは手軽に手にしてもらい、広がることの方が大切。外務省の要請で海外に行くこともあるが、おりがみのように、とにかく紙さえあればどこでもコミュニケーションが取れる文化なんて、他には無いと思います。

——海外の方の反応はいかがですか？



小林一夫（こばやし・かずお）  
お茶の水 おりがみ会館館長  
NPO 法人 国際おりがみ協会理事長  
東京都生まれ。手染め和紙・江戸千代紙の老舗「ゆしまの小林」4代目後継者として、染色技術や折紙などの展示・講演を通して和紙文化の普及活動を国内外で行う。



**小林** まず、ビツクリされますね。一枚の平面の紙が二次元から、三次元へと変化する様子を見ると。

——国際交流のきっかけと、活動を教えてください。

**小林** 過去に大使夫人会の催しがあり、おりがみを披露したことから交流がスタートしました。今では親善で各国に行くことも多くなりました。その際は和服を着たりしてできる限り日本をアピールしますが、実際に児童施設や病院など様々な施設でおりがみを実践してみると、日本だから、伝統文化だからというのは関係ないように感じます。紙だけで子どもたちの笑顔が広がり、年配の方には、指先を動かすことが、治療にもつながります。おりがみの素晴らしさを改めて実感します。

## 《変化する伝統、文化の継承》

——伝えたい文化の本筋とはどういうものですか？

**小林** 「はじめに権利ありき」ではなく、手軽

に手に触れる（試す）ことができ、それを伝えることが大切。そして時代の変化に順応でき進化していくことでしょうか。

——伝統文化継承者として、今、大切に感じることは何ですか？

**小林** そもそも伝統は時代に合わせて変化するもの。今は他の芸能・礼法でもわかり易くなってきましたね。説明書やガイドブックも充実してきました。要するに、世の中に伝わらなければ何にもならないということですね。

——かつて和紙は神事に使うことが多かったのですか？

**小林** 昔は高価で貴重なものでしたから、特別な時にしか使えませんでした。丹精込めたものを奉納する際に使う紙として使われていました。私たちの会社は、今もなお、手染めを続けています。紙を染めることにより、生活の中での紙の用途を広げることができました。時代を読みながら続けていくことが、その後の文化に繋がっていくのだと考えています。





column 4

# 漆器を日常の暮らしで使うということ

文 = 桐本泰一 (輪島キリモト・桐本木工所)

昨年夏、生活工房で開かれた「くらし・うるし・研究室」ワークショップにて、漆大好きなスタッフと協力し、15名の子どもたちに対して、漆という塗料についてのお話し、実験、体験などを行いました。「輪島塗って?」「拭き漆のスプーンを作ろう!」「うるし研究室」「漆器の上手な使い方!」「うるしは長生き!」……。それはそれは密度の濃いワークショップでした。大人でも充分に楽しめる内容だったと思います。最後まで集中力を切らすこと無くキラキラとした目をしていた子どもたちの表情が印象的でした。

現代は「モノ」が溢れています。大量に作り、安く売り、たくさん買えることで、人が個人的に所有するモノは数百点から千点に至ると言われています。モノを捨てるのが問題化している今、「何」が良いモノなのでしょうか。人の好みは十人十色ではなく、百人百色。いろいろな

価値観の元、多くのモノが氾濫しています。

そんな中で、漆器とは木などを加工した素地に、漆の木の樹液を塗り重ねて作ります。木や漆をはじめ、自然からの恵みを使い、多くの職人さんが製作に携わります。製作する時にも木のへらや女性の髪から作られる刷毛など、手作りの道具を大切に使います。少々手間はかかりますが、丈夫で長持ちします。使い込んで傷ついても、丁寧な塗りが施されていけば塗り直せるのです。その表情は「ふっくら」していて、触ると「しっとり」と感じ、塗膜は「奥行き」が深いのです。実際、手に口をつけてみますとわかりますが、漆器は手に馴染み、唇には柔らかく、見る目にも美しく、ヒトの感性を豊かにしてくれます。

近年のさまざまな実験から、完成した漆器は「抗菌作用」「滅菌作用」

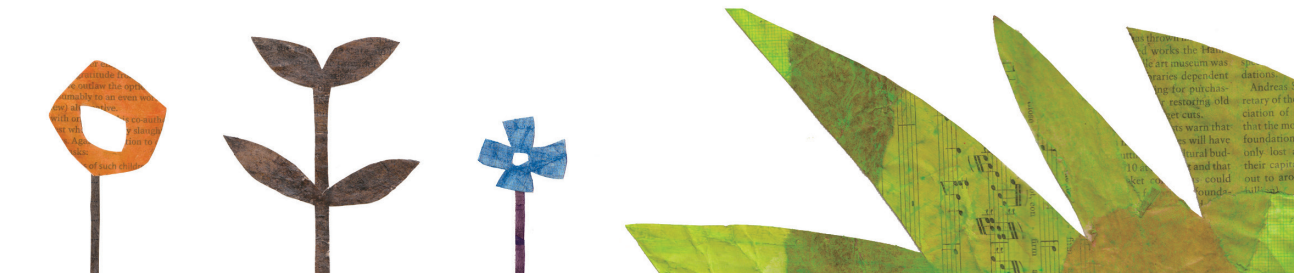
までもが確認されています。抵抗力のしっかりしていない幼い子どもたち、抵抗力が弱ったご年配の方々に対して安心安全なモノなのです。器としては少し高額ですが、とても長く使えますから、人工素材で作られ、使いながら買い換える器などよりも結局はお得なのです。私はこういったほんものの漆器をもう一度この世の中に広めていくことで、今を生きる人の気持ちよさを応援し続けていけると考えているのです。

桐本泰一 (きりもと・たいいち)

輪島市生まれ。大学で工業デザインを専攻しオフィス設計に従事後輪島に帰郷。家業の朴木地を生業にして、暮らして使うための木製品、漆の器、小物、家具、建築内装材等を同年代の職人達と一緒に創作し続けている。  
<http://kirimoto.net>

くらし・うるし・研究室

『』の事業報告は P.47 をご覧下さい。



アトリエブラヴォー 展覧会 スピンオフ

# ブラブラブラヴォーな日々

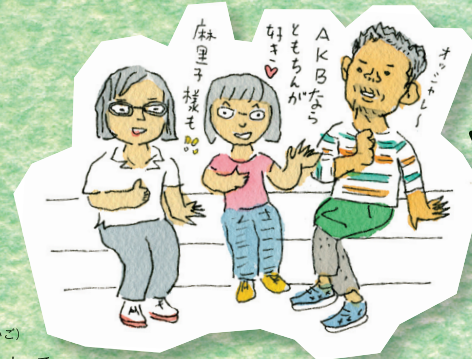
絵・文 = 小池アミイゴ

アトリエブラヴォー展覧会の企画監修を務めた小池アミイゴ氏による見聞録。

彼らの活動を支える人たちのひとりとして交流を深めてきた氏ならではのエピソードをご紹介します!



アトリエブラヴォー (以降、アトブラ) 初期メンバーの樋渡 (ヒワタシ) さんは相撲仲間。年に6度行われる大相撲のたび、15日間、毎日18時になると、その日の取り組みに対する熱い雑感が画像と共に携帯メールで送られてきます。ボクももちろんそれに対して熱く返信。ボクにとって唯一趣味を共にする友人は彼だけ! そんなわけで、アトブラに足を踏み入れた瞬間からはじまる相撲談義、そして四股、鉄砲、すり足とおつき合いするのです。これこそアートじゃね?



アトブラのメンバーとの会話の基本は「恋」と「オシャレ」と「ちょっとエッチ」、たまに「世界平和」。何度かアトブラに通ううち「これって、普通にこの世代の男の子の会話じゃん!」てね。それに関してはボクの得意分野だからね、彼らと普通にそんな会話を重ねたら、彼らの絵がプワ〜ッと開いてゆくのに出会った。恋とかオシャレが表現のエネルギーだってこと、アトブラで確信したのだ! この日も新メンバーのカレンさんを交えての恋話。そんな休憩時間の話の行方は、ここではちょっと...

小池アミイゴ (こいけ・あみいご)

長沢節主催のセゾモードセミナーで絵と生き方を学ぶ。イラストレーターとしての活動と併せ、唄のための時間 OurSongs を主催。日本各地でライブやワークショップを企画開催。



アトブラについて和気あいあいと書いていくけど、自閉の傾向が強い人もいるわけで、しかし、そんな人とこそ「絵による会話」が楽しくてね! ボクが絵を描いている時「これ以上は踏み込んでもらいたくない」という人の距離感のルールがある。それをメンバーにも置き換えて、必要最低限でコミュニケート。あとはただただ絵で会話! これは申し訳ないけど、ダメでも出来るということでは無く、しかし、多くの人に知ってもらいたい術でもあるな〜。



今回の展覧会の作品制作のため、モデルをやってみました。そもそも、アトブラに行くときはオシャレを心がけているんだよね。そんなきっかけで始まる会話こそがクリエイティブ! 大切なのは彼らが社会と繋がること。矛盾するようだけど「アート」という枠のみで彼らを語ってしまうことは、非常にもったいない! ボクの知る限りのオシャレや音楽、東京の流行などをネタに、彼らと会話。エッ? 描き始めて1分で「できたー」だって!? つか、オレのことまったく見ないまま描いてるヤツも、う〜む、それでいいのだ!!

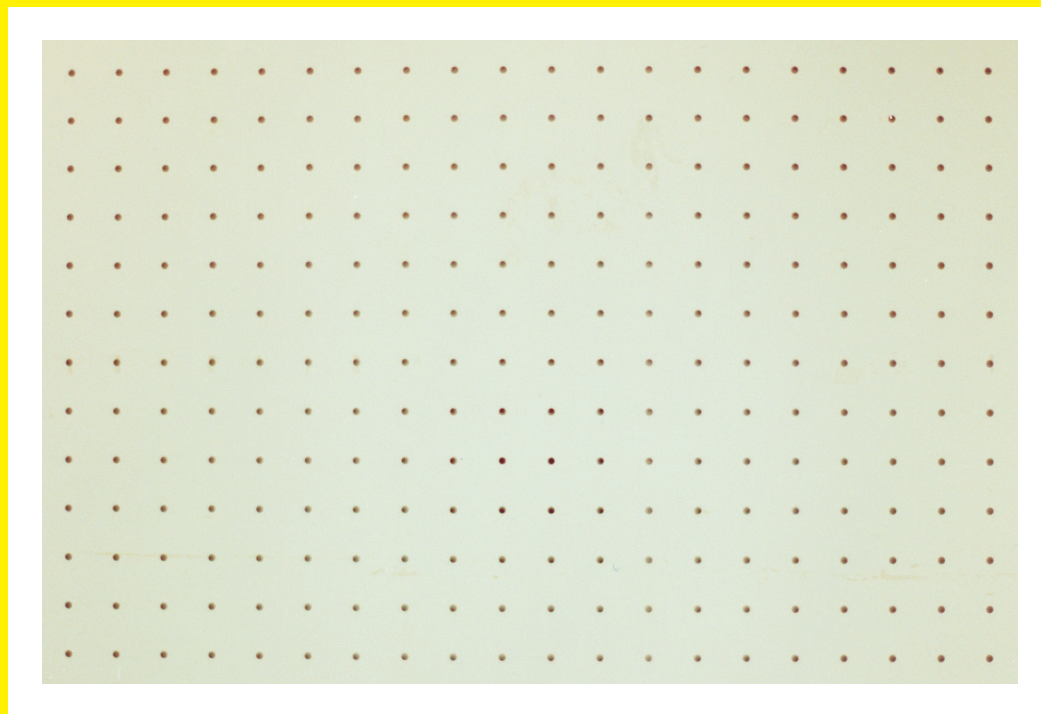
アトリエブラヴォー展覧会

『』の事業報告は P.40 をご覧下さい。



# 生活工房 ANNUAL REPORT 2012

## 事業報告 > 展覧会

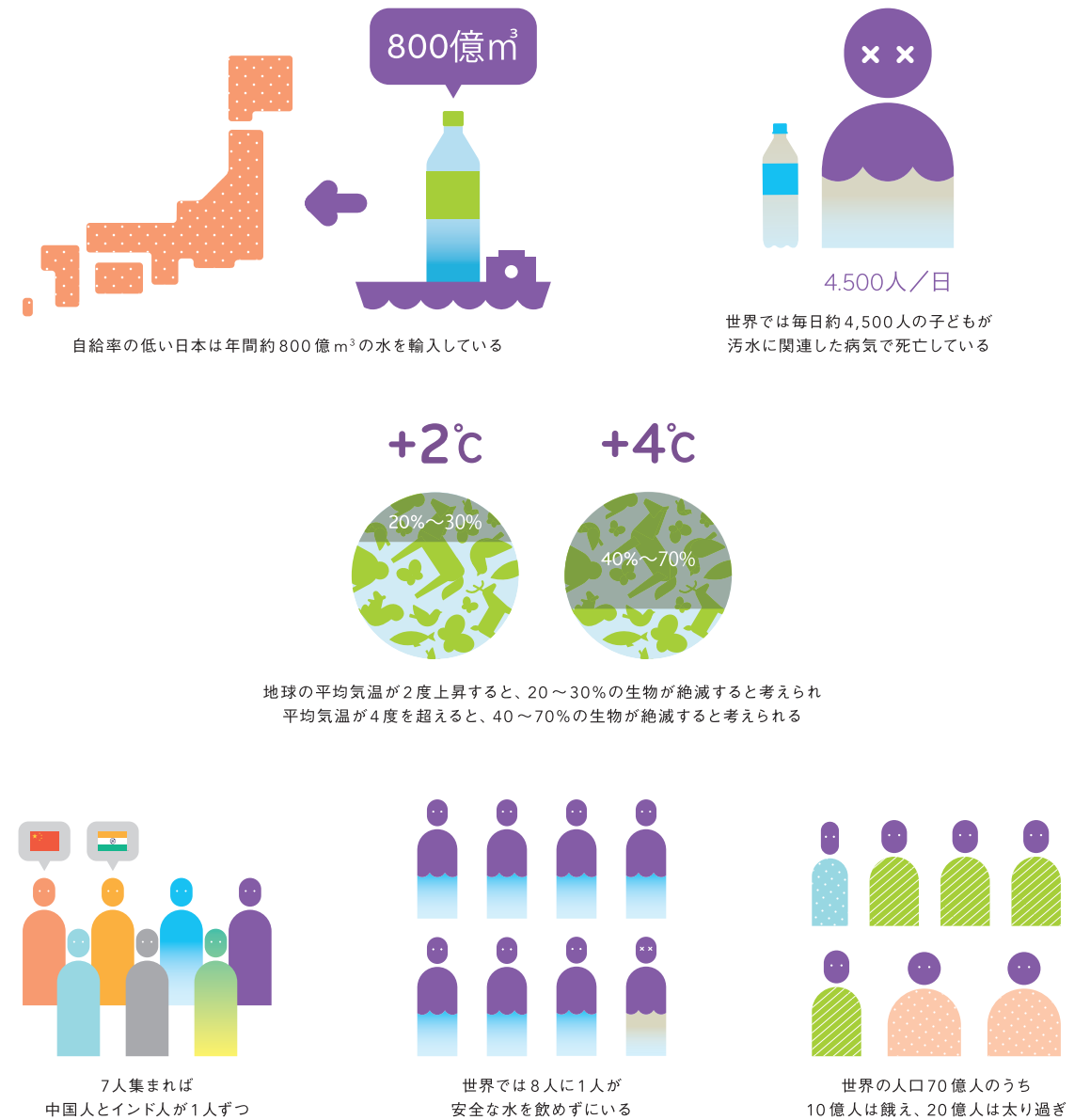


## EXHIBITION

### INFORMATION GRAPHICS

## 環境を知るためのグラフィックデザイン

インフォメーション・グラフィックスは、数字や文字などのデータを、分かりやすく整理し、視覚化するグラフィックデザインのこと。「インフォメーション・グラフィックス展【環境編】」では、地球を巡る“水”をテーマに、視覚を通じてより直感的に環境問題を理解できるように努めました。ここでは国内外のクリエイティブ、カルチャーシーンにおいて活躍を続けるデザインスタジオ「グルーヴィジョンズ」が本展のために制作したグラフィックの一部を紹介します。





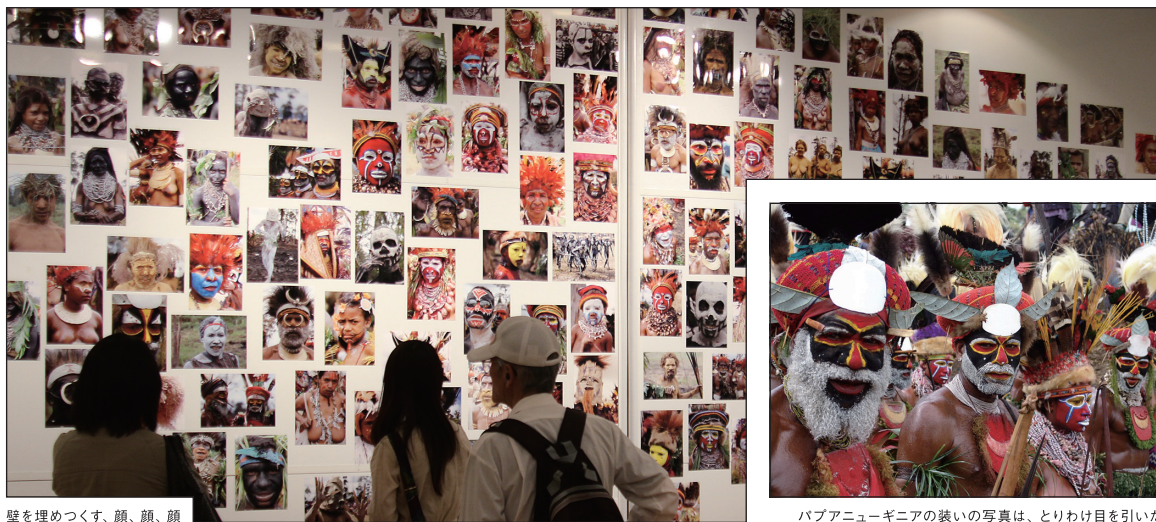
## 異郷 西江雅之写真展

半世紀にわたり、人間の文化と言語を追い続けてきた学者・西江雅之氏。1961年に初めてアフリカの地を踏んでから現在までに撮りためた数万点の写真の中から、いくつかのキーワードをもとに選りすぐった約300点を展示した。アフリカ、アラビア、パプアニューギニアなど世界のさまざまな地域の写真が壁面を埋め尽くし、現地の祭りの映像や民芸品などに彩られ、会場には忽然と「異郷」が出現した。

西江氏は世界がめまぐるしいスピードで均一化して行くのを感じながら、訪れた地で出会った人や風景を掬い取るようにシャッターを切る。今回展示した写真の中には、今はもう存在しない人々の営みと風景が多くおさめられている。

学術的に貴重だけでなく、来場者が驚いたのは、被写体との距離の近さだった。あまたの言語を操り、小さな鞆ひとつで現地に溶け込むハダシの学者のなせるわざ。もうこの世にない風景の温度を感じ、この世にいない人々の息づかいを感じさせる展覧会となった。

ハダシの学者が見た、異郷の風景と人々



壁を埋めつくす、顔、顔、顔



パプアニューギニアの装いの写真は、とりわけ目を引いた

開催日時：2012年5月25日(金)～6月17日(日)／11:00～19:00 会場：生活工房ギャラリー、ワークショップルームB

来場人数：3,032名 企画協力：加原奈穂子、岡澤浩太郎、KEN、direction Q

【関連企画①】講演会「わたしと異郷」

開催日時：6月2日(土)／14:00～15:30 会場：ワークショップルームA

講師：西江雅之(言語学者／文化人類学者) 参加人数：92名 参加費：500円

【関連企画②】講演会「世界でことばを探る」

開催日時：6月9日(土)／14:00～15:30 会場：ワークショップルームA 講師：西江雅之 参加人数：99名 参加費：500円

【関連企画③】講演会「世界で文化を考える」

開催日時：6月16日(土)／14:00～15:30 会場：ワークショップルームA 講師：西江雅之 参加人数：108名 参加費：500円

50代女性の声 > そこにいる人間に出会えた感じ。文化の違いより、深いところにある人間の営み方が見えるよう。

## 日常／非日常展

～世界の明日につながるデザイン

あなたにとっての「非日常」とは何ですか？

本展は、災害などの「もしもの時」に備えたデザインと、その活用方法をシミュレートすることで、私たちが選択すべき、これからの生活スタイルを考察した。

避難所に最低限のプライベート空間を創出し、避難者の心と身体をケアする、坂茂氏(建築家)の「PPS4(紙管パーティションシステム)」。支援の必要な途上国の《日常》にプロダクト・デザインでイノベーションを起こす米国NPO法人コベルニクの活動紹介や、区民と意見を交わしながら制作した眞田岳彦氏(衣服造形家)の「プレファブコート」といった提案を通じて、私たちが《非日常》においても《日常》の自分らしさを失くさないために必要なものについて問いかけた。

また、自然の恩恵を受けつつ、その厳しさとも向き合うことで育まれた古来よりの日本の暮らしから、会場では、保存食や発酵食品といった食文化の中にある先人が伝承した《日常》の豊かさと《非日常》に備える知恵を学んだ。



4Fフロア全体を会場とした展覧会



眞田岳彦氏のプレファブコート



ワークショップ「お守りIDカード入れをつくろう!」

開催日時：2013年3月15日(金)～4月1日(月)／11:00～19:00 会場：ワークショップAB

来場人数：2,153名 協力：NPO法人国際ボランティア学生協会、米国NPO法人コベルニク、眞田造形研究所、せたがや災害ボランティアの会、太陽工業株式会社、坂茂建築設計+ボランティア・アーキテクト・ネットワーク(VAN)、東京農業大学、野中和夫、NPO法人フードデザイナーズネットワーク、株式会社良品計画 協賛：理想科学工業株式会社

【関連企画①】ワークショップ「お守りIDカード入れをつくろう!」

開催日時：3月23日(土)／14:00～16:00

会場：セミナールームAB 講師：大図まこと(クロスステッチデザイナー) 参加人数：27組(54名) 参加費：1,000円

【関連企画②】ワークショップ「途上国の生活を知ろう～あなたの100円を何に使う?」

開催日時：3月24日(日)／14:00～16:00

会場：セミナールームAB 講師：天花寺宏美(米国NPO法人コベルニク日本支部事務局) 参加人数：15名 参加費：600円

【関連企画③】非常食カフェ「もしも」

開催日時：[会期中の土・日・祝日] 3月16日、17日、20日、23日、24日、30日、31日／12:00～18:00

会場：ワークショップルームA 運営：NPO法人フードデザイナーズネットワーク

30代男性の声 > 震災から2年が経ち、私たちは日常のなかに「もしもの時」をもっと意識して取り込める気がした。



7つの海と手しごと 第3の海

## 地中海とトルコのイーネオヤ

トルコの女性たちは、慣習・宗教上の理由から髪の毛を覆う。そのスカーフの縁を彩る飾りが「オヤ」と呼ばれるレース編み。トルコでは手先の器用な女性が評価されるので、数多くの嫁入り道具を用意しなければならぬが、その中でも最も重要とされるオヤスカーフは、女の子が生まれたときから親戚一同で準備し始めるというほどだ。オヤにはさまざまな種類があるが、中でも縫い針（イーネ）で作るイーネオヤは最も古いとされている。1本の縫い針と糸のみを使い、結び目を作るといった作業の連続によって、繊細なモチーフを編み上げていくイーネオヤ。現代では作る人も少なくなくなってしまったが、「オヤがなければ嫁にいけない」という地域も多く残っている。

本展では、トルコ伝統手芸の店を営む野中幾美さん所蔵の、貴重なイーネオヤや関連資料約100点を展示。地域ごとの特色や風習などを紹介しながら、トルコの女性たちが母から娘へと伝え続けてきた手しごとの美しさに迫った。

伝え継がれる、  
繊細なレース編み



地域ごとに異なる美しさを持つオヤスカーフ



野中氏によるギャラリートーク

長持ちや衣装など、花嫁道具も展示した

開催日時：2012年6月24日(日)～7月22日(日)／9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：8,671名 特別協力：ミフリ 野中幾美 後援：トルコ共和国大使館、日本・トルコ協会、日本トルコ文化協会（京都）

【関連企画①】イーネオヤ・ワークショップ「ステッチの練習～コースターの縁飾り」

開催日時：7月1日(日)／①10:00～12:30、②14:30～17:00 会場：セミナールーム

講師：小島優子（オヤの会講師） 参加人数：①11名、②12名 参加費：各2,000円（材料費込）

【関連企画②】イーネオヤ・ワークショップ「モチーフに挑戦～アサガオのストラップ」

開催日時：7月8日(日)／①10:00～12:30、②14:30～17:00 会場：セミナールーム

講師：小島優子 参加人数：①12名、②12名 参加費：各2,000円（材料費込）

【関連企画③】講演会「イーネオヤを訪ねて」

開催日時：7月16日(月・祝)／14:00～15:30 会場：ワークショップルームA

講師：野中幾美（「ミフリ」代表） 参加人数：64名 参加費：500円

【関連企画④】ギャラリートーク「イーネオヤ・ロード」

開催日時：①6月30日(土)、②7月14日(土)、③7月22日(日)／各14:00～14:30

会場：生活工房ギャラリー 講師：野中幾美 参加人数：①13名、②16名、③18名 参加費：無料



展示ケースの中はまるでお花畑のよう

30代女性の声 > 使い捨てがいいと思われがちな今の日本で、母から娘へと、心とともに伝えていく大切さを教えてもらいました。

日本の伝統文化と歳時記 vol.3

## 和の色彩と紋様にみる江戸の粋 ～重ね色・合せ色・挿し色

日本人のこころの文化と  
豊かな知恵を再考する

日本の伝統文化の魅力を再認識するシリーズ企画第3弾。今回は日本の伝統色と紋様からみた「江戸の粋」がテーマである。日本には、古来より自然と共に暮らす上で、ごく当たり前に自然の色彩を生活に取り入れる文化があった。それは建造物から身に着ける物まで実に多彩である。

歌舞伎を代表とする江戸の大衆文化は、色彩そのものを「粋」とした。幕府より、決して派手な色の服装が許されなかった庶民たちは、色の合わせ方やアクセントになる挿し色を伝統的な紋様と組み合わせ、日常的に色遊びを楽しんだ。

会場では、江戸の大衆文化として親しまれていた伝統的な紋様が刷られた千代紙を使った和紙人形や、日本の伝統色について、その色名の由来や浮世絵をもとにパネルで解説。

関連セミナー「歌舞伎の衣装にみる色の役割と粋」では、歌舞伎解説者・中山和子氏を迎えて歌舞伎の衣装や江戸文化にまつわる興味深い話を伺った。



会場は春らしい穏やかな色合いとなった

繊細な和紙人形からも時代背景がみえる

セミナー「歌舞伎の衣装にみる色の役割と粋」

伝統色の由来を解説  
先人の想いが伝わる

開催日時：2012年4月7日(土)～5月20日(日)／9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：7,237名 協力：DICカラーデザイン株式会社、お茶の水・おりがみ会館 企画制作：有限会社アイエイチ・ファクトリー

【関連企画】セミナー「歌舞伎の衣装にみる色の役割と粋」

開催日時：4月14日(土)／14:00～16:00 会場：セミナールームAB

講師：中山和子（歌舞伎解説者） 参加人数：35名 参加費：一般1,000円、学生800円

50代女性の声 > 歌舞伎の色彩って独特で好きです。まさに江戸の粋を感じます。



# JAPONDER9

第9回留学生研究発表会

9回目を迎える「JAPONDER」は、留学生たちの研究を展示や発表会を通して紹介する企画。交流会や料理教室も行い、留学生と区民をつなぐ場づくりも行っている。

デザイン、情報工学、経営学、建築、文学、環境社会学など、彼らの研究は高度で専門的なものだが、私たちの暮らしにもつながる興味深いテーマがたくさんある。

Sebastian Andres YURJEVIC ZENTENO さんの『築地市場の再考』は、市場の建築物としての歴史的価値を見つめなおし、東京の玄関と考えて、移転後の活用方法を探る研究である。外国人のジョブトレーニングセンターの役割をもつ居住施設へのリノベーションという提案は、日本人である私たちに、東京の文化遺産とその可能性を気づかせてくれる発表であった。他にもインドの Supriti SETHI さんの『樋口一葉の和歌の近代性』など日本文化を探究するテーマもあり、留学生を通して日本を再発見することができる点が JAPONDER の醍醐味でもある。

留学生ってどんな勉強しているの？



展示「JAPONDER'S EYE」では研究概要をパネルで紹介



発表会の後は、世界のお茶とお菓子を囲んで交流会



研究発表会「JAPONDER'S TALK」では6名の留学生が発表



留学生から学ぶインド・パンジャブ地方の家庭料理

開催日時：2012年9月14日(金)～10月7日(日)／9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：3,679名 共催：SUNUS 協力：東京外国語大学学生有志 助成：公益財団法人中島記念国際交流財団

参加留学生と研究テーマ：

- ・『レーザーセンサーとGPSからみる3Dモデル』：Ashwani KUMAR (インド／東京大学大学院)
- ・『DNAコンピューティング』：Nathanael AUBERT (フランス／東京大学大学院)
- ・『日本のビデオゲーム産業におけるイノベーション』：Ruxandra FILIP (ルーマニア／明治大学大学院)
- ・『築地市場の再考』：Sebastian Andres YURJEVIC ZENTENO (チリ／早稲田大学大学院)
- ・『樋口一葉の和歌の近代性』：Supriti SETHI (インド／東京外国語大学大学院)
- ・『環境社会学とジャーナリズム』：Han BAO (中華人民共和国／早稲田大学)
- ・ポスターデザイン：Byung-rok CHAE (大韓民国／多摩美術大学大学院)

【関連企画①】 留学生による研究発表&交流会

開催日時：9月29日(土)・30日(日)／13:00～16:00 会場：ワークショップルームB 講師：留学生6名 参加人数：78名 参加費：無料

【関連企画②】 留学生の国の家庭料理をつくらう～インド・パンジャブ編

開催日時：9月28日(金)／11:00～15:00 会場：ワークショップルームA 講師：Ashwani KUMAR 参加人数：17名 参加費：1,000円

20代女性の声 > 普段なかなか知ることのできないマスターレベルの研究について分かりやすく説明して頂き、とても興味深かった。

# アトリエ jiwa の じわじわ jiwa 展

顔もほころぶ！  
みんなで作るグループ展

イラスト、切り絵、テキスタイル、コラージュなど、それぞれの個性を活かした活動を展開する、すぎはらけいたろう、タナカマコト、udu、Booii! によるアーティストトグループ「アトリエ jiwa (ジワ)」の作品と、区内小学生と共同制作した作品を展示。親子連れも多く訪れる夏休みの時期に、表情豊かで見える人も笑顔になるような作品が、ギャラリーの壁面いっぱいになんだ。天井に吊した小学生の手による作品は、展示に先駆けて区内の小学校で実施したワークショップで jiwa が講師となって子どもたちも「ゆるかわいい」作品は、講師の人柄と子どもの自由な創造力が相まって、思わず笑顔がこぼれる陽気なものに仕上がった。楽しいことに一生懸命取り組む jiwa の魅力と、ものづくりの楽しさ、みんなで取り組む楽しさが伝わる展覧会となった。想像の生きものをお面で表現するワークショップでは、個性的な作品を真剣に制作する子どもたちの姿が印象的だった。



壁に描かれた木から伸びる枝に実る、小学生の作品展



ワークショップで作ったお面をつけて



ワークショップの後、みんなで変身！がお～

開催日時：2012年7月29日(日)～9月2日(日)／9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：10,832名 企画制作：アトリエ jiwa

【関連企画】 ワークショップ「お面を作って変身しよう！」

開催日時：8月26日(日)／14:00～16:00 会場：ワークショップルームA 講師：アトリエ jiwa 参加人数：30名 参加費：1,000円

30代女性の声 > のびのびしていて気持ちが良い。



## アトツギ展

山と里、庄内に学ぶ

**伝統の食、  
私たちは何を食べ継いできたか**

この展示では「食のアトツギ」をテーマに、食の伝統と継承について探った。和食の礎となった精進料理と、農業の基本であった自家採種による在来作物の栽培。その伝統が今に伝わる山形県庄内地域の食文化を紹介しながら、私たち日本人は何を食べ継いできたのか、そこに伝えられてきた知恵や心を探った。地域の食文化を継いでいくことは、その土地の風土と、先人が積み重ねてきた人の営みを継いでいくこと。庄内地方で地域のために新たな取り組みをはじめた若者たちや、世田谷の在来作物についても取材し、これからの時代のアトツギの形を考えた。

関連イベントでは、鶴岡市羽黒町の宿坊のおかみさんたちを講師に迎えた出羽三山精進料理ワークショップとトークイベントを開催。また在来作物をテーマにしたドキュメンタリー『よみがえりのレシピ』の上映会と監督トーク、世田谷の伝統大蔵大根と下山千歳白菜を使った漬物ワークショップも行った。



写真や映像、在来作物の種も展示



世田谷の伝統大蔵大根でたくわんを漬ける

**開催日時**：2012年11月23日(土)祝～1月14日(月)祝／9:00～20:00 [12月29日～1月3日休館] **会場**：生活工房ギャラリー

来場人数：5,474名 後援：鶴岡市観光連盟、羽黒町観光協会、湯田川温泉観光協会、鶴岡食文化創造都市推進協議会

協力：NPO法人フードデザイナーズネットワーク、株式会社出羽庄内地域デザイン、出羽三山歴史博物館、いでは文化記念館

【関連企画①】 **ワークショップ「出羽三山精進料理レシピ」**

開催日時：10月28日(日)／13:00～16:30

会場：ワークショップルームA 講師：出羽三山精進料理プロジェクト(羽黒町観光協会) 参加人数：17名 参加費：3,500円

【関連企画②】 **トークイベント「深めるトーク。山の継ぎ方。」**

開催日時：10月28日(日)／18:30～20:30

会場：ワークショップルームB 講師：伊藤ガビン(編集者)、成瀬正憲(山伏) 来場者数：39名 参加費：2,000円

【関連企画③】 **ドキュメンタリー映画上映会「よみがえりのレシピ」**

開催日時：1月13日(日)／13:00・16:00 会場：セミナールームAB 講師：渡辺智史(映画監督) 参加人数：99名 参加費：1,000円

【関連企画④】 **ワークショップ「記憶を味わうー在来野菜の漬物レシピ」**

開催日時：1月14日(月)祝／13:00～17:00

会場：ワークショップルームA 講師：中山晴奈(NPO法人フードデザイナーズネットワーク) 来場者数：15名 参加費：2,000円

20代女性の声 > 地方の味と世田谷の味、最後には私自身の味を継ぐ方法を考えさせられるとても良い展示だと思った。

きょうはなに描くどー？ 街と人と絵描きたちのオシャレな関係

## アトリエブラヴォ展覧会

**絵を描いて生きるということ**

絵を描くことを仕事とする福岡のアーティスト集団「障害福祉サービス事業所 JOY倶楽部 アトリエブラヴォ」の絵画作品を中心に、映像作品や活動記録を展示。12名のアーティストによる魅力的な作品と合わせて、ライブペインティングやワークショップ制作などを通して、社会での自立を目指す活動そのものを紹介した。人や街との関わりから自らの力を伸ばし、協力の手を呼び込み、豊かな毎日を切り開く彼らの姿を、より鮮度をもって伝えるべく、展覧会の最終週末に関連企画を開催。トークイベントでは、アトリエブラヴォの試行錯誤の歴史や成功の秘訣、福祉関係以外の人の協力の重要性について語られた。販売会には、区内施設も出展し、身近な取り組みを紹介した。

来場者が作品をきっかけとして、作家やアトリエブラヴォに興味を抱き、それぞれの視点や立場から、障がい者や福祉施設の活動を身近に感じる展覧会を目指した。



ギャラリーに並んだ作品は大胆かつ繊細



販売会には質の高いグッズが並ぶ



ワークショップで心の感度をUP



トークではゆかいなエピソードの数々も

**開催日時**：2012年10月13日(土)～11月18日(日)／9:00～20:00 **会場**：生活工房ギャラリー

来場人数：8,298名 共催：社会福祉法人JOY明日への息吹 障害福祉サービス事業所 JOY倶楽部

協力：Hair Design Gram、THE BEEHIVE DELUXE、株式会社天空丸、リキテックス/パニーコルアート株式会社、スペース・ユイ他  
企画制作：小池アミゴ(イラストレーター) デザイン・アートディレクション：中嶋香織 映像・編集：ワンダーランドハウス&丸山玲一郎

【関連企画①】 **ワークショップ&トークイベント「アミブラブラヴォ」**

開催日時：11月18日(日)／13:00～16:00 会場：ワークショップルームA

講師：ワークショップ=小池アミゴ、トーク=原田啓之(JOY倶楽部 副施設長)

参加人数：57名 参加費：1,000円(障がい者と同伴1名は無料)

【関連企画②】 **販売会**

開催日時：11月17日(土)・18日(日)／11:00～18:00 会場：ワークショップルームB

来場者数：307名 出展：アトリエブラヴォ、はっぴいハンドメイド(藍工房、大原福祉作業所、ハーモニー、パイ焼き窯、わくわく祖師谷)

企画協力：植竹保子 協力：世田谷区保健福祉部障害者地域生活課

10代女性の声 > 人とのつながりを大切にしたいと思いました。



## ワークショップ報告

## 14歳のワンピース展

「14歳のワンピース」の報告展では完成したワンピースだけでなく、ワークショップ（51頁参照）の工程を写真や記録映像でも紹介し、参加者が14歳の自分と向き合った現場の空気を伝えた。布に記録されている14歳の心模様。目に見えなかったものが、次第に立ち現れてくるライブ感がワークショップには満ちていた。展示に寄せて講師の飛田正浩さんはこう綴る。「その心境をデザインしたその画は何かいびつだが、あからさまなほどストレート、明快だ。そしてそれが美しく見えるのは、悩みに対峙するニュアンスを、人はそのデザインに見るからだろう」。

このワークショップと展覧会は、ファッションデザイナー、写真家、グラフィックデザイナーなどの協力のもと開催し、14歳がデザイナーという職業と出会う場もあった。また関わった大人たちや来場者にとっては、自分自身の14歳を想起し、デザインの教育のこと、デザインを仕事とすることはどういふことか、デザインの課題を見つめ直す機会にもなった。

## 14歳の自分と向き合った3日間の記録



完成したワンピースをお披露目



ワークショップのプロセスを写真で追う



ワークショップの映像は14歳の緊張感や笑顔を伝える



材料や道具も展示

開催日時：2012年2月9日(土)～24日(日)／9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：3,315名 協力：飛田正浩・三橋奈穂子(spoken words project)、池田晶紀・川瀬一絵(ゆかい)、後藤武浩、いすたえこ(NNNNY)、渡辺明日香、山根諒子・池ノ谷侑花(やっかい)

20代男性の声 > 回を経て、子どもたちの顔が不安から楽しさ、自信に変化しているさまがとても印象的でした。

DAYS JAPAN 写真展 地球の上に生きる  
世界の未来をつくるために

## カメラがとらえた厳しい現実

『DAYS JAPAN (デイズジャパン)』は「1枚の写真が歴史を変えることもある」、「人々の意志が戦争を止める日が必ず来る」を表現に掲げる写真報道誌であり、フォトジャーナリズムの発展のため「DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞」を設けている。生活工房では、昨年引き続き受賞作品の写真展を開催し、日本が直面している現実や世界で起きている問題と真剣に向き合い、考える機会をつくりだした。とくに世界的にも大きな出来事であった2011年の東日本大震災の関連作品が多く受賞し、本展でも展示された。

トークイベント「ジャーナリストの視点から」では、フォト・ジャーナリストで『DAYS JAPAN』編集長の広河隆一氏が、死と隣り合わせの現場に立ち、その厳しい世界の現状とどのように向き合ってきたかを語った。また、認定NPO法人ACEが制作したドキュメンタリー映画『バレンタイン一揆』の上映と監督らを迎えたトークイベントも開催した。

広河隆一氏の作品群



地雷のレプリカ等からみる現地の厳しい現実



作品の約半数を占めた東日本大震災の写真



会場では真剣にメモをとる来場者も多い

開催日時：2013年1月20日(日)～2月3日(日)／11:00～19:00 会場：ワークショップルームB、生活工房ギャラリー

来場人数：2,080名 共催：株式会社デイズジャパン 企画制作：株式会社世田谷社

【関連企画①】トークイベント「ジャーナリストの視点から」

開催日時：2013年1月27日(日)／14:00～15:30 会場：セミナールームA

講師：広河隆一(フォト・ジャーナリスト、『DAYS JAPAN』編集長) 参加人数：80名 参加費：500円

【関連企画②】「バレンタイン一揆」映画上映会+トークイベント

開催日時：2013年2月2日(土)／[上映]12:30・16:30・18:00、[トークイベント]14:00～15:30 会場：ワークショップルームA

講師：吉村瞳(映画監督)、藤田琴子(出演者)、白木朋子(NPO法人ACE事務局長) 参加人数：120名 参加費：上映会：一般800円・学生500円、トークイベント500円

50代男性の声 > 厳しい現実を目の前にしながら、自分に何ができるか考えさせられた。



# 生活工房 ANNUAL REPORT 2012

## 事業報告 > ワークショップ



## WORKSHOP

地球のいまを知る

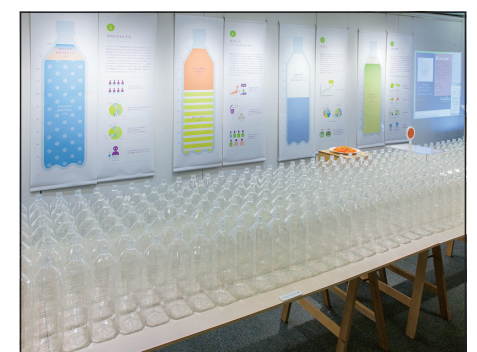
## インフォメーショングラフィックス展〈環境編〉

### 環境問題を日常から考える

世界の人口が70億人へと到達した2012年。人口の増加とともに、私たちの生活を支える食料や資源の使用量も増加することになり、当然、環境への負荷も看過できなくなる。温暖化をはじめ様々な問題が地球規模で顕在する中で、頭ではなんとなく分かっていても、その想像し難さゆえに、他人事のように思えてしまうこともあるのではないか。そこで、本展では、より身近な問題として環境を考えられるよう、データや情報を分かりやすく視覚化したインフォメーショングラフィックスにより直感的なアプローチで「地球のいま」を紹介した。私たちが毎日使っている「水」をテーマに、地球をめぐる水に関する環境問題を、鮮やかなグラフィックデザインで提示した。また、会場にはペットボトル（2ℓ）を560本並べ、普段食べている食事に使われている水の量を再現。蛇口をひねると当たり前のように流れ出す水から、改めて環境問題を考える機会となった。次年度にはエネルギー編の実施も予定している。



会場にはペットボトル560本が並んだ



開催日時：2013年3月1日(金)～31日(日) 9:00～20:00 会場：生活工房ギャラリー

来場人数：4,292名 制作協力：一般社団法人Think the Earth、酒井隆 デザイン：グルーヴィジョンズ

30代男性の声 &gt; デザインで語る環境問題という視点が面白い



## 子どもワークショップ

## くらし・うるし・研究室

天然の塗料である漆を教材にして身のまわりにある素材、モノ、仕組みについて探求するワークショップ。はじめに輪島塗の21工程の器を見ながら、漆塗りはどのような技法であるか、完成までにかかれた時間と手間について教えてもらった。その後、生漆を温度や湿度など環境の違う場所に置いて硬化実験を行い、固めるために湿度が必要という漆の特性を体感し、また、漆器、金属、プラスチックなどさまざまな素材の器にお湯や氷を入れて熱伝導の実験も行い、料理によって適した器があることも学んだ。漆という素材から考えることで、色形の綺麗さだけでなく、ものづくりやプロダクトデザインの本质に目を向けてもらう機会となった。

本物の手しごとに出合うことで、生活の中で、作り手の顔が見える丁寧につくられた道具を使うことの大切さが見えてきた。子どもたちが木地を磨いたスプーンはスタンプが漆を塗り、輪島で仕上げられて後日届けられた。

うるしから考える  
プロダクトデザインのこと

漆液が固まっていく様子を観察



最後にお気に入りの漆器をスケッチ

完成したスプーン



輪島塗の21工程の実物

開催日時：2012年7月28日(土) 10:00～16:00 会場：ワークショップルームA

講師：コード・モノ・コト、桐本泰一 対象：小学3年生以上 参加人数：15名 参加費：1,000円 協力：輪島キリモト

小学6年生男子の声 &gt; しっ器を作るのはとても大変で苦労することを知って、職人さんたちに感謝したいと思った。

## 中学生次世代車教室

## エコカーを組み立てて乗ってみよう！

電気自動車やハイブリッドカーが  
教えてくれること

自動車は、もはや人類が手放すことができない発明品である。同時に、枯渇しつつある石油やエネルギー問題を抱えているのも事実。本企画は、次世代を担っていく中学生を対象とした体験教室で、電気自動車やハイブリッドバギーを組み立てながら、地球環境やエネルギー問題についても考察した。

今年度は、これまでの「電気自動車教室」「ハイブリッドカー教室」の2企画を1つにし、より内容の充実を図った。第1回「地球環境・エネルギーと自動車&エコカーを知ろう」では企画制作者の館内端氏（日本EVクラブ代表）から、電気自動車の原理と構造について消費電力の実験を交えて学び、第2回はトヨタ自動車の開発担当者による「ハイブリッドカーの原理と構造」という講義の後、ハイブリッドバギーの組立て作業を行った。第3回は電気自動車を組立てた後、先のバギーとともに2台の試乗を楽しんだ。

参加者は次世代車を満喫し、環境への意識を高める機会となった。



電気自動車の構造を実習



ハイブリッドバギーの組立て作業



完成した電気自動車で試走会



電気自動車の操作をレクチャーする館内氏

開催日時：2012年①6月3日(日)、②7月8日(日)、③11月17日(土) 各10:00～16:00

会場：①②東京都立総合工科高等学校、③大磯プリンスホテル駐車場スペース

講師：館内端（日本EVクラブ）他 対象：中学生 参加人数：15名 参加費：3,500円

共催：東京都立総合工科高等学校 協力：横浜ゴム株式会社 協賛：トヨタ自動車株式会社 企画制作：日本EVクラブ

中学生の声 &gt; 構造は簡単なのに、スピードが結構出てすごい。免許取れたら電気自動車を買う。



## 子どもワークショップ

## 分解ワークショップ 家電製品の仕組みを探ろう！

**分解博士にきいてみよう！**

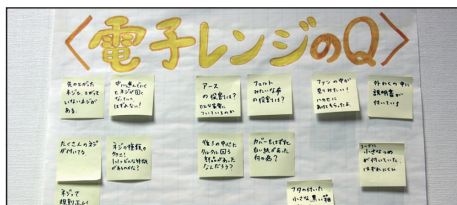
分解ワークショップは、ノートパソコンや電子レンジなどの家電製品の仕組みを、自分の手で分解し調べる。12年目を迎えた今年も参加者の真剣な表情が印象的であった。だが、「分解」が子どもたちを夢中にさせるのはなぜだろうか？

まず考えられるのは分解を自分の家ですると怒られるからだ。電子レンジを内緒で壊したら、怒られるどころか事故故につながり、絶対禁止である。しかし「知らないことは知りたい！」という好奇心を育むことは大切だ。

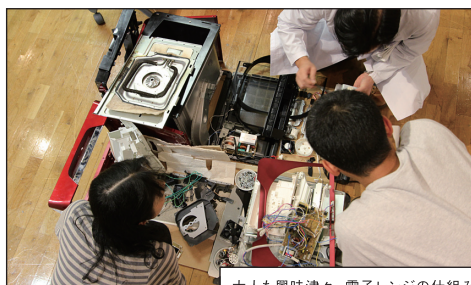
ワークショップで子どもたちの質問に答えてくれる分解博士（東芝の専門社員が協力）は、まさにそんな好奇心を育て続けてきた大人たちだ。博士たちが一貫して伝えてきたのは「分解と破壊の違い」。分解とは文字通り、部品を観察しながら「分けて」、その役割を「解いていく」こと。つまり「分解＝好奇心」と言える。好奇心は日常でも興味深い発見を導く。そんな人ならパソコンの中身でもワクワクする宝箱に感じるはずだろう。



分解した部品はキレイに並べてみる。写真は掃除機



分解しながら、気になったことを製品ごとに書きだす



大人も興味津々、電子レンジの仕組み

分解作業中は真剣そのもの



開催日時：2012年11月3日(土)祝／13:30～17:00 会場：ワークショップルームAB

講師：分解博士のみなさん（株式会社東芝） 対象：小学3年生以上の親子2人1組 参加人数：23組（親子2人1組）

参加費：1,000円 協力：株式会社東芝 企画監修：金子金次（メディア・コーディネーター）

小学5年生男子の声 &gt; 掃除機を分解した。ゴミを集めるための仕組みはとても科学的だった！

## 子どもワークショップ

## みんなのなまえでアニメーション

絵が動きだすふしぎ！

テレビや映画で見ているアニメーションは、なぜ絵が動いてみえるのか、その仕組みをアニメーション制作の中から学ぶワークショップ。今年のお題は自分の「なまえ」。名前の文字の形から連想して、面白い動きや物語を考えて「自己紹介アニメーション」をつくった。

アニメーションの素材は1枚1枚の絵。次の動きや場面転換を考えながら、1枚1枚絵を描いて、撮影して、パソコンに取り込んで編集する。数秒の動画を作るために何十枚もの絵が必要であることや、アニメーションに込められた時間と手間を体感してもらった。

絵を描く、絵を動かすだけでなく、アニメーションで「自分を伝える」という目標があることで、観る人を楽しませたいという子どもたちの気持ちが引き出され、ユーモアの詰まった力作が完成した。

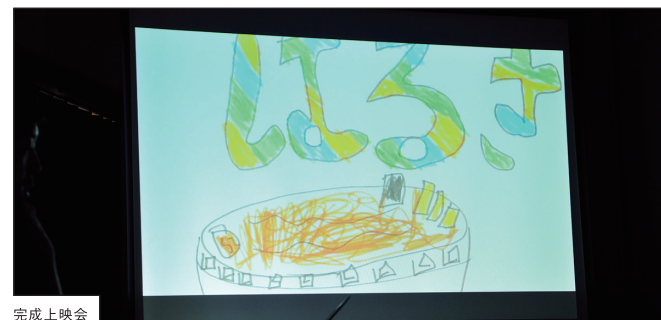
最後は保護者や家族を招いての上映会をおこない、作品はDVDにして、後日参加者に送られた。



ライトボックスをつかって作画



1枚1枚を撮影し、パソコンに取り込む



完成上映会



作画の途中で先生からのアドバイス

開催日時：2012年8月15日(火)・16日(水)／10:00～16:30 会場：ワークショップルームA

講師：小柳貴衛（アニメーション作家） 対象：小学3年生以上 参加人数：41名 参加費：1,000円 協力：東京工芸大学

小学4年生男子の声 &gt; アニメーションを作るのが初めてだったので、それがスタートになったと思うからです。



折り紙や色セロファンを使ってイメージを形に表す



事業報告 > ワークショップ >

## 子どもワークショップ 14歳のワンピース

心模様を布に記録する

中学2年生を対象としたテキスタイルデザインのワークショップ。参加者へのはじめの課題は、自分の心に響く言葉を採集すること。1日目は、言葉に重ねた思いについて話し合い、その言葉から湧き上がるイメージを折り紙で色や形に表した。2、3日目はその心模様をシルクスクリーンの技法で布にプリントし、オリジナルテキスタイルが完成した。14歳の自分と向き合った3日間。ワークショップは、表すこと、伝えること、デザインとは何かを体験する場となった。布は工場で作ったワンピースに仕立て、ワークショップと撮影会の工程を紹介する報告展も行った。

開催日時：2012年12月9日(日)・15日(土)・16日(日)／10:00～17:00 会場：ワークショップルームA

講師：spoken words project 飛田正浩 対象：中学2年生女子 参加人数：7名 参加費：4,000円

協力：三橋奈穂子 (spoken words project)、池田晶紀・川瀬一絵 (ゆかい)、後藤武浩、いすたえこ (NNNNY)、渡辺明日香

10代女性の声 > すごくおもしろくて、自分の将来を考えるのにも役立ったと思う。

事業報告 > ワークショップ >

## 子どもワークショップ DJ体験教室 SETAGAYA★MIX2012

チキチキyeahー

音をつくる、表現を楽しむ!

ターンテーブル上で回転するレコードを操作して音やリズムを作る演奏方法「スクラッチ」。小学5年生から高校2年生までの子どもたちが、初めて触る本格的な機材を使って、「ベイビースクラッチ」、「フオワードスクラッチ」、「チョップスクラッチ」などスクラッチの基本的なテクニックをプロのDJから学んだ。レコードも初めて触るとい子どもたちが、リズムに乗る楽しさや自分が作った音を人に伝える喜びを体験。発表会では、高校生の巧みなパフォーマンスに小・中学生が感嘆するなど、年齢の差があるからこそその交流も生まれた。また、デジタル世代の子どもたちと、LP・CD世代の親たちが、機材を囲んで会話を弾ませる姿も見られた。

プロの機材とプロDJの指導という、日常ではなかなか出合えない職業や表現に触れる希少な体験内容と合わせて、学校や家庭には無い「特別な一日」を過ごした。

本企画は、世田谷区内に本社をもつ企業と協力して開催された。

左右の手で別々の操作をして演奏



機材にあるたくさんのボタンやレバーを説明中



リズムをつかむまでひたすら練習



発表会では緊張しながらもレコードをこする!

開催日時：2012年12月8日(土)・9日(日)／13:00～16:00 会場：世田谷パブリックシアター稽古場C

講師：DJ JIF ROCK 対象：小学5年生～高校生 参加人数：9名 参加費：2,000円 共催：ベスタクス株式会社

小学6年生女子の声 > むずかしかったけど、とても楽しかったです。

子どもたちは真剣そのものでワークショップに参加



事業報告 > ワークショップ >



## 夏休み子ども特別企画・ワークショップ 『触れる地球』を体感しよう!

地球が教えてくれること

「触れる地球」は、生きた地球の様子を手取るようになる世界初のデジタル地球儀で、リアルタイムの気象情報などが更新され直径約1mの球体に写しだされる。

このワークショップでは、開発者の竹村真一氏の指導で「触れる地球」を操作し、地球の魅力や面白さをもっと語れるようになりたい、と考える子どもたちをデモンストレーターとして募集。日頃から関心のある、地球や宇宙のことを、まるでスポンジのように吸収しながら、熱心に取り組んだ。今まで以上に「地球のことを知りたい!」という気持ちが生えたであろう夏休みの2日間となった。

開催日時：2012年8月4日(土)・5日(日)／13:30～15:00 会場：ワークショップルームB

講師：竹村真一 (京都造形芸術大学教授/Earth Literacy Program代表) 対象：小学5年生～高校生 参加人数：26名 参加費：無料

小4女子の声 > 私は地球が大好きなのに、知らないことばかりでした。もっと知りたいです。



# 生活工房 ANNUAL REPORT 2012

## 事業報告 > セミナー／イベント



## SEMINAR / EVENT

生命（いのち）をつつむ未来繊維 2

## 「いつもを運ぶ衣服」 セミナー／ワークショップ

衣服で心をつつむ  
テキスタイル・ケア

生活工房では、2007年から衣服造形家・眞田岳彦氏と共に「心の豊か」を衣服や繊維の視点で考察するフィールド・プロジェクトを行ってきた。「生命をつつむ未来繊維」と題して、最新技術で作られた繊維を、衣食住や医療などの視点から考察した昨年度に続き、今年度は、震災以降、私たちの重要課題である「緊急時の備え」を主題にした「いつもを運ぶ衣服」を制作。その「プレファブコート・エマージェンシーセタガヤ」と名付けられたベストは、4つのバッグの組み合わせで出来ており「運ぶ衣服」として日常と非日常の両方「いつもの機能を備えている（詳しくは26頁を参照）。セミナーでは「心の作用」に着目して、災害時の心のケアの大切さについて、臨床心理士の藤森和美氏に講演いただいた。ワークショップでは眞田氏が1枚の布を、両除けや担架等、多様な用途で活用する方法を「テキスタイル・ケア」として体験してもらい、非常時を「心」という視点で考えた。

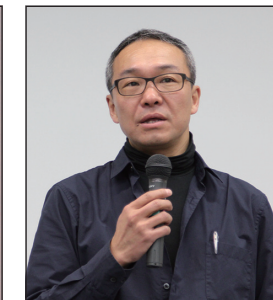
裂いたシャツから丈夫なロープをつくる



軍手を利用してマベットづくりを体験



藤森和美氏



眞田岳彦氏

開催日時：2013年2月9日(日) 10:30～12:30 会場：セミナールームAB

講師：眞田岳彦（衣服造形家）、藤森和美（臨床心理士） 参加人数：42名 参加費：一般1,000円、学生800円

30代女性の声 > 普段からの備えが、非常時の「安心」や「安全」の工夫につながると実感した。



知の航海 2012

## ぐるぐるエネルギー

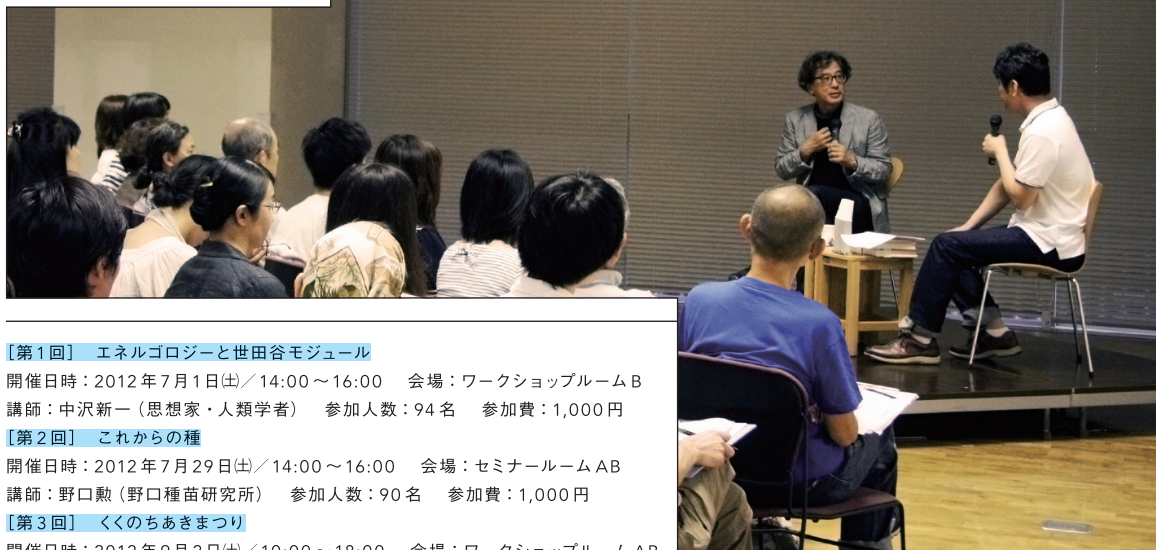
**暮らしの「循環」を取り戻す**

東日本大震災を経て、エネルギーに関する議論が活発化した2012年、連続講座「知の航海」は、中沢新一氏が示されたエネルギーゴロジ（エネルギーの存在論）という考え方を背景に、循環をキーワードに全5回のセミナーを企画した。

中沢氏の「ホモ・サピエンスの思考にかえる」というフレーズが印象的だった1回目は、人間の本质とエネルギーの関係、互酬性などから説き、2回目は野口種苗研究所の野口勲氏が、様々なリスクが考えられる現代の種苗に警鐘を鳴らし、固有種のあり方を説いた。「あきまつり」と題した3回目は、セミナーや映画上映、また様々なブース出展が並んだ複合イベント。4回目は土徳の地、富山県南砺市の食材で料理ワークショップを実施し、5回目は哲学者・國分功一郎氏と食にまつわる思想や政治から現代の生活を再考した。

5回の講座を通じて、エネルギーや食の問題を暮らしの根本から見直し、未来のために何を選ぶべきかを深く考察する場となった。

第3回で対談した中沢新一氏(左)と中島岳志氏



## 【第1回】 エネルギーゴロジと世田谷モジュール

開催日時：2012年7月1日(土)／14:00～16:00 会場：ワークショップルームB

講師：中沢新一（思想家・人類学者） 参加人数：94名 参加費：1,000円

## 【第2回】 これからの種

開催日時：2012年7月29日(土)／14:00～16:00 会場：セミナールームAB

講師：野口勲（野口種苗研究所） 参加人数：90名 参加費：1,000円

## 【第3回】 くくのちあきまつり

開催日時：2012年9月2日(土)／10:00～18:00 会場：ワークショップルームAB

講師：石倉敏明（人類学者）、瀬戸山玄（ドキュメンタリスト）、中沢新一（思想家・人類学者）、中島岳志（政治学者）

参加人数：約600名 参加費：無料（一部セミナー、ワークショップは有料）

## 【第4回】 土徳を食む

開催日時：2012年10月6日(土)／11:00～14:00 会場：ワークショップルームA

講師：有馬邦明（「パッソ・ア・パッソ」オーナーシェフ）、田中敏恵ほか 参加人数：21名 参加費：2,000円

## 【第5回】 たべもののポリティクス

開催日時：2013年3月17日(日)／11:00～14:00 会場：セミナールームAB

講師：國分功一郎（哲学者・高崎経済大学経済学部准教授） 参加人数：84名 参加費：1,000円

30代男性の声 &gt; エネルギーについて深く考えさせられ、おもしろい思考方法を学ぶことができた。



生活工房 15周年記念企画

## 地球にさわろう、希望の地球を語ろう！

**さわられる地球と語り合った3日間**

地球は宇宙的にみても奇跡に満ちた惑星である。私たちは次世代の子どもたちに、地球の危機を語るだけでなく、もっと地球の尊さに目を向けるべきなのだ。

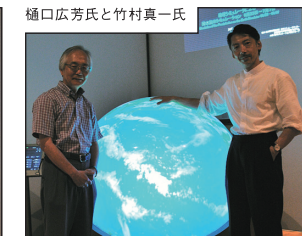
このセミナーは「さわられる地球」の開発者・竹村真一氏が、そのデモンストレーションと、各分野の専門家をゲストに迎えた対談形式で行われ、最新科学に基づく「新たな地球の見方」を語る3日間となった。

初日にお迎えしたのは地球科学者である鎌田浩毅教授。火山活動やマグマなど、まさに生きた地球のメカニズムについて熱く語り合った。2日目のゲストは鳥類学者の樋口広芳教授。「さわられる地球」には、樋口氏の協力のもと渡り鳥の地球移動データが組み込まれている。人類以上に地球を理解しているかもしれない鳥たちの眼になって地球を考察した。

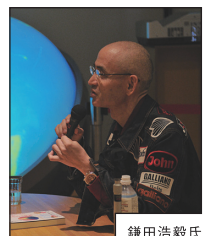
最終日は竹村氏による総括講演。いかに地球が希望に満ちた惑星であるかを、次世代へのメッセージとして発信した。



竹村真一氏とデジタル地球儀「さわられる地球」



樋口広芳氏と竹村真一氏



鎌田浩毅氏



地球を擬視化することで、その魅力を語り合った3日間

## 【第1回】 不動の大地も「動いている」！

開催日時：2012年8月3日(金)／19:00～21:00 会場：ワークショップルームB

講師：竹村真一（京都造形芸術大学教授／Earth Literacy Program代表） ゲスト：鎌田浩毅（地球科学者、京都大学大学院教授）

参加人数：41名 参加費：1,000円

## 【第2回】 渡り鳥の目で地球を旅する

開催日時：2012年8月4日(土)／16:00～18:00 会場：ワークショップルームB

講師：竹村真一 ゲスト：樋口広芳（鳥類学者、慶應義塾大学大学院特任教授） 参加人数：36名 参加費：1,000円

## 【第3回】 10年後の地球をどう創ろう？～次世代にむけて

開催日時：2012年8月5日(日)／16:00～18:00 会場：ワークショップルームB

講師：竹村真一 参加人数：56名 参加費：1,000円

60代女性の声 &gt; 地球が尊い存在であることを、改めて実感させられた。



# 生活工房 ANNUAL REPORT 2012

## 事業報告 > 地域と市民活動



## LOCAL COMMUNITY

## 朗読講座「豊かなことばの世界」

日本語の美しさ、豊かさを体感

ことばの持つ力、豊かさを「朗読」の世界を通して体感し、日常生活を豊かに送ることを目指した講座。NHK日本語センターのアナウンサーが講師となり、基礎から始め表現力の向上を目指して、聞きやすい声の出し方、聞き手に伝えるための読み方を少人数制の丁寧な指導のもとレッスンした。「ゼロ弾きのゴージュ」などのなじみ深い名作を題材に、表現する楽しさを学びながらスキルアップが図れるよう工夫を凝らした内容となった。

朗読発表会では、受講者が各講座での指導や日頃の練習成果を活かして心をこめて朗読し、読み手も聞き手も、あらためて日本語の美しさを実感する機会となった。

【取り上げた作品】  
壺井栄「二十四の瞳」 夏目漱石「坊っちゃん」  
菊池寛「三人兄弟」 三島由紀夫「潮騒」  
太宰治「女生徒」 池澤夏樹「きみのためのバラ」  
和辻哲郎「古寺巡礼」 宮沢賢治「ゼロ弾きのゴージュ」  
小川未明「月とあざらし」 川端康成「雪国」  
芥川龍之介「蜘蛛の糸」



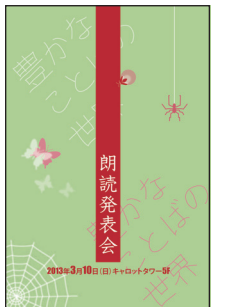
朗読発表会



心をこめた朗読に満場が聞き入った



講座では、毎回熱心なレッスンが行われた



朗読発表会がき

開催日時：年4回（4月期、7月期、11月期、2月期）各4講座（水曜午前・午後、木曜、金曜） 会場：セミナールームA

講師：財団法人NHK放送研修センター日本語センター 対象：一般 参加人数：173名

参加費：20,000円（4回分）、アーツカード会員は18,000円 共催：財団法人NHK放送研修センター日本語センター

【関連企画】朗読発表会

開催日時：2013年3月10日(日)／13:30～16:00 参加人数：55名 参加費：無料

50代女性の声 > 聴いていただく緊張はありますが、慣れと楽しみを感じられるようになってよかったです。



## 世田谷アートフリマ

今年で10年目を迎え、生活工房の春・秋の恒例イベントとして定着した「世田谷アートフリマ」。区内で活動する手づくり作家たちの発表の場として、また、出展者と来場者の交流の場として、地域の活性化に寄与し、現在では各回5000名近い来場者を数えている。今年度は17回、18回に加え、世田谷文学館での出張編も実施した。

春・秋それぞれ約150名の作家がオリジナル作品を販売するほか、実演販売のコーナーも用意し、作家の鮮やかな手つきを眼前に楽しむこともできる。そして毎回人気の高いワークショップは、豆本やオリジナルタンブラー、子ども向けの雑貨づくりなどを実施。子どもたちが夢中で作業する姿に、ものづくりの本質的な喜びを垣間見ることができ、その興味を伸ばせるような取り組みも、今後視野に入れていくべきだろう。

運営の骨格も整い、出展希望者や来場者も年々増加している。イベントの独自性や地域性を色濃くし、今後も発展させていきたい。

### 手づくり作家が大集合、ものづくりの祭典！

作家との対話も楽しい



開催日時：[Vol.17] 2012年4月21日(土)～22日(日)、[Vol.18] 2012年9月22日(土)～23日(日) 11:00～18:00  
 会場：ワークショップルームAB、セミナールーム、市民活動支援コーナー  
 来場人数：[Vol.17] 約6,000名、[Vol.18] 約5,000名 共催：世田谷アートフリマプロジェクト 協力：世田谷233  
 【関連企画】世田谷アートフリマ in 文学館  
 開催日時：2012年11月3日(土)祝/10:00～17:00 会場：世田谷文学館 文学サロン 参加人数：約600名

30代女性の声 > 今年もステキな作家さんと出会うことができ、お気に入りを買えました！

## おはなしいっぱい

### 区内で活動する、おはなしの会が大集合！

「世田谷おはなしネットワーク」と共催する本企画では、2回の講演会と3日間のおはなし会『おはなしいっぱい』を開催。今年度で12回目のおはなし会は、構成、出演、準備のすべてを出演者が行う市民の手作り企画として回を重ねてきた。来場者にはリピーターも多く、夏の恒例企画として多くの区民に親しまれている。

今年も幼児から小学生まで対象年齢を分けた幅広いプログラム構成で、紙芝居、すばなし、手あそび、わらべ唄、パネルシアターなどの多彩な上演を行った。

2回の講演会では、絵本作家を招いて作りの想いを聞き、演者としての造詣を深めた。また、これまで参加グループのみを対象としてきたが、一般参加者を募った結果、新規会員も獲得した。蓄積されたノウハウを、若い世代に伝える取り組みにも着手している。

\*1997年活動開始。世田谷区内で活動する複数のおはなしの会が連携し、図書館などで活動中。現在、57のグループから成る。

大型絵本で上演。見入る子どもたち



講演会の様子。三浦太郎氏

おはなし会の様子。特別ゲスト：飯野和好氏

影絵を上演する児童館の子どもたち

開催日時：2012年8月22日(水)～24日(金) 11:00～15:00 会場：ワークショップルームAB  
 出演：18グループ 特別ゲスト：飯野和好(イラストレーター/絵本作家) 来場者人数：1,526名  
 共催：世田谷おはなしネットワーク 協力：株式会社クレヨンハウス、世田谷区立中央図書館、世田谷区立児童館

【関連企画①】講演会「絵本『くつついた』誕生のひみつ」

開催日時：2012年6月19日(火)/10:00～12:00 会場：セミナールームAB 講師：三浦太郎(絵本作家) 参加人数：97名

【関連企画②】講演会「飯野和好氏 自作絵本を語る」

開催日時：2012年11月6日(火)/13:00～15:00 会場：セミナールームAB 講師：飯野和好 参加人数：80名

40代女性の声 > 子どもに生きた“お話”を実感できる。



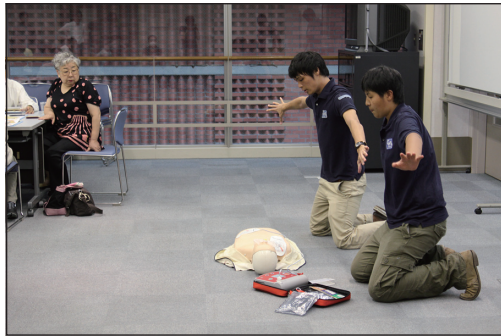
## 市民活動防災ワークショップ

## 災害対応図上訓練・もし大規模災害が起きたら

**緊急時の行動をシミュレーションする**

生活工房「市民活動支援コーナー」では、様々な活動団体が、日々、打合せやイベントの資料づくり、パソコン講座の受講など、意欲的にそれぞれの活動に励んでいる。市民活動が更なる活性化を図るためにこれからは必要不可欠。それは各々の危機管理である。大地震などの緊急事態は時間と場所を選ばない。自宅にいる時以外でも、移動中や市民活動の最中に発生するかもしれない。もし、今この時にも首都直下型地震が発生したら、私たちはどんな行動ができるだろうか？

ワークショップでは、団体の防災意識の向上を目的に、会場であるこの場所で大規模地震が発生した想定のもとに進行。応急救命デモンストレーションから、災害発生対応図上訓練まで、自分たちの行動を広げた地図の上でシミュレーションしていく。地震発生からの時間の経過にあわせてコマを動かしながら話し合うことで、私たちが「もしもの時に」備えるべき課題を実感して、再認識した。



スタッフによる応急救命デモンストレーション



地図上に自分たちの行動を記していく



宮崎猛志氏 (IVUSA 危機対応研究所 所長)



グループごとに日頃からの防災意識について話し合う

開催日時：2012年7月22日(日) 14:00～16:00 会場：セミナールーム

対象：生活工房市民活動支援コーナー登録団体の方、もしくは市民活動をしている方 参加人数：37名

講師：宮崎猛志 (IVUSA 危機対応研究所 所長) 進行：NPO法人国際ボランティア学生協会 後援：世田谷市民活動支援会議

30代女性の声 &gt; 地図を広げることで、(身近な)地域の課題を再認識できた。

## 第3回世田谷区芸術アワード“飛翔”

## 職人の技とデザインのアイデアをつなぐ

世田谷区が実施する若手アーティスト支援事業「世田谷区芸術アワード『飛翔』」。今年度は第3回の募集が行われ、生活工房が担当する《生活デザイン部門》では、橋倫央さんが受賞した。

世田谷の職人と橋さんが教鞭をとる昭和女子大学学生とのコラボレーション企画。

地域の中に散在する職人の技をリサーチし、その技を使ってどんなデザインが可能かを学生たちが考え、新しい製品を作り出そうという共同作業の企画提案である。

製品の部品や部材などの目に見えないものも含め、職人の技能を体系的にマップ化することで、どんなスキルがどんなアイデアと結びつけば、より良い美しいデザインへ展開できるかを考察することができ、技術とアイデアの出会いが新しいデザインプロダクトが生まれるきっかけになる。

地域の職人の技と、女子学生のアイデアが融合すると、どんなデザインが誕生するか、2013年秋の展示発表に期待したい。



受賞した橋倫央さん



プロジェクトメンバーの昭和女子大学の学生さんと

## 『世田谷区芸術アワード“飛翔”』とは

次代の文化・芸術分野を担う将来性のある若手アーティストに飛躍する機会を提供するため、世田谷区により制定された5部門(生活デザイン、舞台芸術、音楽、美術、文学)の賞。

募集と受賞記念発表を隔年で行い、受賞者には創作支援金の交付と翌年度に発表の機会が提供される。

募集期間：2012年5月～9月2日(日) 応募件数：16件 表彰式：2012年12月1日(土) 会場：世田谷美術館講堂

発表展示：2013年秋、生活工房ワークショップルームにて開催予定





## 市民活動支援コーナー

生活工房では、世田谷区内の公益的な市民活動団体の活動促進や区民の社会活動推進の場として、「市民活動支援コーナー」を設置。運営委託したNPOとともに、市民活動の活性化を進めている（2013年3月時点で約400団体が利用登録）。NPOによる運営も軌道に乗り、細かい工夫と配慮による利用環境の向上に努めている。

また、同コーナーに登録している市民活動団体のPRイベントとして「市民活動体験喫茶パオ」を開催。各団体が活動紹介のパネル展示や商品販売ブースを設け、団体間の交流や来場者へ活動成果を発表する場とした。

多様な市民活動をさらに活発に！

場所：生活工房3階 開館時間：9:00～21:00（月曜休館）

委託先：NPO法人国際ボランティア学生協会（IVUSA） 来場人数：22,306名

《関連企画》 パオフェスタ2012「市民活動体験喫茶パオ」

開催日時：2012年10月20日(土)・21日(日)／11:00～18:00 会場：市民活動支援コーナー 参加人数：639名



団体に役立つ情報を掲載しているリーフレット「知って情報2013」

## 世田谷市民活動支援会議（ネットィ）

世田谷区には、NPOをはじめとした市民活動やボランティア団体を支援する組織・団体があり、市民活動の場となる施設や助成金の提供などさまざまな支援を行っており、6つの中間支援団体と世田谷区で「より良い地域社会を作るための市民活動」を支えるネットワークを構築している。

本年は、「伝えてつながる市民活動と情報メディア」というテーマで専門家によるレクチャーと交流会を開催。インターネットを使った情報発信、SNSを活用して地域や分野を超えて団体とつながることの可能性やリスクなどについて学び、情報交換を行った。

伝えてつながる市民活動

共催：社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、財団法人世田谷トラストまちづくり、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、特定非営利活動法人国際ボランティア学生協会、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、世田谷区地域福祉部生涯現役推進課、世田谷区生活文化部市民活動推進課

《関連企画》 せたがや市民活動交流会

開催日時：2013年1月27日(日) 会場：三茶しゃれなあと

講師：浜田忠久（特定非営利活動法人市民コンピュータコミュニケーション研究会（JCAFE）代表） 参加人数：66名

## 市民活動のためのファンドレイジングセミナー

～共感を呼び、社会を変えていく NPOのファンドレイジングの基礎と実践～

自分たちの活動を広く伝えるために！

2011年6月、認定NPO法人制度が新しくなったことにより、ファンドレイジングやそれに向けた広報については一層注目を集めている。NPOの活動の資金源は、会費、寄付、物品販売、助成金、補助金は、参加費など様々であるが、多くのNPOは自主財源が限られたなかでの活動が実状である。

ファンドレイジングは単なる活動資金集めではなく、NPOが解決しようと取り組んでいる社会的課題への理解と共感を広げていく手段であり、多くの市民を巻き込みながら輪を広げることで、社会を変えていくことにもつながる。

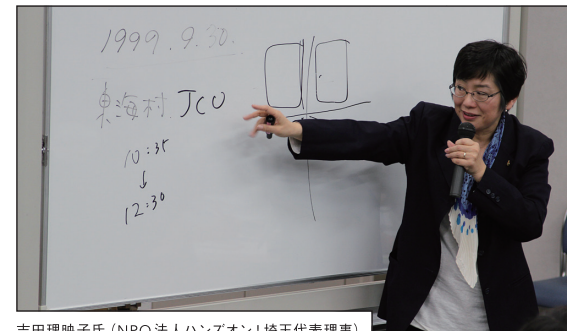
本年度のNPO講座では、このファンドレイジングの手法について、「基礎・戦略編」と「共感・実践編」の2回に分けて実施。NPOが自分たちの活動の価値や意義を再確認しながら、多くの人たちから共感や理解を得るための考え方や戦略的な手法について話し合いながら学んだ。



「ファンドレイジングとは？」基礎からはじめ、効果的な手法を学ぶ



徳永洋子（NPO法人日本ファンドレイジング協会事務局長）



吉田理映子氏（NPO法人ハンズオン！埼玉代表理事）



自分たちの活動を人々に共感してもらうためには何が必要でしょうか？

開催日時：[基礎・戦略編] 2013年2月19日(火)、[共感・実践編] 2月26日(火)／18:30～21:00 会場：セミナールームAB

講師：[基礎・戦略編] 講師：徳永洋子（NPO法人日本ファンドレイジング協会事務局長）、[共感・実践編] 講師：吉田理映子（NPO法人ハンズオン！埼玉代表理事） 参加人数：[基礎・戦略編] 30名、[共感・実践編] 28名 進行：株式会社世田谷社 協賛：NPO法人協議会

30代女性の声 > 自分たちの活動を、魅力的に広報する大切さと難しさを再認識した。



## 第21回国際交流 in せたがや 2013



様々な国の民族衣装を身につけた人々

区民による手づくりの  
国際交流

生活工房では、区民団体が  
行う国際交流事業を共催  
し、サポートしている。

今年で第21回となった  
「国際交流inせたがや」は、  
在日外国人との文化交流を  
テーマに行われる区民手づ  
くりの国際交流事業である。  
28カ国の大使館大使、書記  
官等を来賓に迎え、343  
名が参加。カンボジアの舞  
踊などのアトラクショ  
ンや、お茶や和服の着  
付けなどの日本文化を  
体験することができた。  
また、11カ国からP  
Rブースが出店し、各  
国の特産品の販売や文  
化紹介が行なわれ、区  
民と在日外国人との交  
流が行われた。

開催日時：2013年2月23日(土) 13:00～16:00 会場：ワークショップAB、セミナールームAB

参加費：1,000円 来場人数：343名 共催：世田谷海外研修者の会

## ギャラリーカフェくりっく 壁面展示



11月期「明日また遊ぼう」展示の様子

市民アーティストの  
表現の場

三軒茶屋駅直結のタワー  
2階という便利な立地も手  
伝って、1日2000人近く  
の人がお茶を飲みに来れる  
「ギャラリーカフェくりっ  
く」。その壁面は、市民ア  
ーティストの作品発表の場  
として定着している。

5月に新装されたカフェ  
はこれまで以上にカフェ  
らしく、また壁面作品の映え  
る内装となったためか、自  
らの作品展示を希望す  
る人が増えてきている。  
2012年度は写真・  
ワイヤーアート・絵  
画・イラスト・押し花・  
和紙ちぎり絵・グラス  
ペイントなど個性豊か  
な12企画が、4週間ご  
とに入れ替わりで展示  
された。

開催日時：2012年5月20日(日)～2013年4月27日(土) 8:00～22:00 (土日祝11:00～21:00) 会場：ギャラリーカフェくりっく

参加数：年間12企画程度(展示期間4週間) 展示費用：15,000円(2012年度実績)

年間スケジュール 【4月期】デジタルカメラで遊ぶ/ACC「デジタルカメラで遊ぶ」、【5月期】お庭/クラフトアートKOKO&花音、  
【6月期】スケッチで遊ぶ水彩画展/SC31スケッチで遊ぶ、【7月期】双子の水の塔/駒沢給水塔風景資産保存会、  
【8月期】グラスペイント展「煌」2012/ペイントスタジオchou-chou\*、【9月期】四季のちぎり絵3/河原ナツ子、  
【10月期】色彩たちと遊ぶ/水と光の会、【11月期】明日また遊ぼう/森久由紀、  
【12月期】なんか用?—高野恭史・猫\*給水塔写真展/高野恭史、【1月期】PATTERN 墨×箔コラボレーション/本多里美、  
【2月期】水彩画の会「美匠」/水彩画の会「美匠」、【3月期】花に魅せられてV/Trois



## 生活工房の美味しいレシピ

ワークショップやカフェを通じて、生活工房ではさまざまな「食」をご紹介します。ここではそんな美味しいレシピをご紹介します。

### アルファ米ごはん+味噌玉スープ

「日常/非日常展」に併設された非常食カフェ「もしも」で供された非常食。アルファ米は、炊いたお米を乾燥加工したもの。お湯を注いで15分、水なら60分でふっくらとしたごはんに戻る。味噌玉は、戦国時代に武士たちも持参したという伝統的な非常食。味噌にダシや海草などを加え乾燥させ、お湯で溶いて味噌汁に、炒め物に入れば調味料にもなる優れもの。



香辛料たっぷり本場の味

## 野菜カレー

【材料】 4～5人分

サラダ油 ⇨ 大さじ3～4 (あればギーという精製バター)

玉ねぎ・中 ⇨ 1と1/4個 (1個はみじん切り、残りは薄切り)

トマト ⇨ 1個半 (1個はざく切り、残りは薄切り)

ジャガイモ ⇨ 2～3個 (短冊切りで水にさらしておく)

ブロッコリー ⇨ 1株 (小房に分けておく)

マッシュルーム ⇨ 5～6個 (縦半分切る)

青トウガラシ ⇨ 3本 (半分を小口切り、もう半分は細切り)

グリーンピース ⇨ 小1缶

ショウガ ⇨ 1/2個 (みじん切り)

塩 ⇨ 小さじ1 (お好みで調整してください)

水 ⇨ 1/2カップ

香辛料 クミンシード、ヒング、チリパウダー、ターメリック

コリアンダーパウダー、マンゴパウダー ⇨ 各大さじ1/2

ブラックカルダモン ⇨ 2個 (皮をむき中身を出しておく)

カレーリーフ ⇨ 2枚

【作り方】

- 1) 鍋に油を入れて、火にかける
- 2) クミンシードを入れ香りが出たら、ブラックカルダモン、ショウガと玉ねぎのみじん切りを入れ炒める。
- 3) カレーリーフ、ヒング、チリパウダー、ターメリック、コリアンダーパウダーとトマトのみじん切り・塩を入れて混ぜる。
- 4) 短冊切りのジャガイモ、小房に分けたブロッコリー、マッシュルームを入れて軽く炒め、水1/2カップを加え、中～強火で20分くらい煮込む。
- 5) 薄切りの玉ねぎ、小口切りの青トウガラシ、グリーンピース、マンゴパウダーを加えて軽く煮る。
- 6) 火を止めてから、薄切りのトマト、細切りの青トウガラシをちらす。



インドの惣菜パン！

## パランタ

【材料】 約4人分

薄力粉 ⇨ 300g

全粒粉 ⇨ 400g

水 ⇨ 2カップ (生地の具合で加減する)

ジャガイモ ⇨ 5個 (皮つきのまま茹でた後マッシュする)

玉ねぎ・中 ⇨ 1/2個 (みじん切り)

青トウガラシ ⇨ 1本 (小口切り)

ショウガ ⇨ 1/2個 (みじん切り)

塩 ⇨ 小さじ1 (お好みで調整してください)

コリアンダー (葉) ⇨ 20g (みじん切り)

バター ⇨ 適宜 (生地を焼く時使う、好みで調整してください、あればギー)

香辛料 マンゴパウダー ⇨ 大さじ1 チリパウダー ⇨ ひとつまみ

【作り方】

- 1) 粉に水を加え、よくこねた生地を、表面が乾燥しないようにして、しばらく寝かせておく。
- 2) 茹でてマッシュしたジャガイモにチリパウダー、マンゴパウダー、みじん切りの玉ねぎ、ショウガ、コリアンダーの葉、小口切りの青トウガラシ、塩を入れて混ぜる (コリアンダーの葉は少し残しておく)。
- 3) 生地を4～5等分して丸めた後、直径15～20cm程に丸く伸ばし、(2)の具をのせて四方から畳み、平らに伸ばす。飾りとして表面にコリアンダーの葉を散らす。
- 4) フライパンにバター (または油) を小さじ1くらいひき、伸ばした生地を両面こんがり焼く。

※パランタは具入りの総菜パンのようなもの。

ナンとは違って種の発酵をしない。

※「JAPONDER 9」のワークショップ 「留学生の国の料理をつくろう～インド・パンジャブ編」にて調理しました。

クセになる美味しさ！

## 旬野菜のピクルス

【材料】

にんじん ⇨ 1本

セロリ ⇨ 1本

きゅうり ⇨ 1本 など

調味液 リンゴ酢 ⇨ 200ml

水 ⇨ 200ml

砂糖 ⇨ 60g

塩 ⇨ 小さじ4

ベイリーフ ⇨ 2枚

タカの爪 ⇨ 1～2本

ブラックペッパー (ホール) ⇨ 適量

【作り方】

- 1) 野菜をビンの大きさに合わせて切り、ビンにつめる。
- 2) 調味液の材料をあわせて鍋に入れ、砂糖が溶けるまで煮る。
- 3) 調味液をさましてから (1) に注ぐ。食べ頃は、つくってから3日～2週間。



簡単、かわいい、美味しい！

## いちご酒

【材料】

いちご ⇨ 1～1.2kg

ホワイトリカー ⇨ 1.8ℓ

氷砂糖 ⇨ 250g

【作り方】

- 1) 傷んだいちごを除き、洗う。
- 2) キッチンペーパーなどで水気をふき、ヘタを取る。
- 3) 熱湯消毒したビンに (2) と氷砂糖を入れて、ホワイトリカーを静かに注ぐ。
- 4) フタをして冷暗所に置く。
- 5) たまにビンを揺らして砂糖を溶かし、2か月ほど熟成させていちごを取りだして完成。

※「日常／非日常展」にて保存食として紹介しました。



食卓の必需品！

## 伝統大蔵大根のたくあん

【材料】

大根 ⇨ 10本

生ぬか ⇨ 1.5kg

塩 ⇨ 500g

砂糖 ⇨ 300g

赤唐辛子 ⇨ 10本

昆布 ⇨ 50cm

干した果物の皮 (柿、リンゴ、みかんなど) ⇨ 適量

【作り方】

- 1) 大根はあらかじめ干しておく。葉も干して、捨てずに取っておく。
- 2) 生ぬかに塩、砂糖、赤唐辛子、昆布、干した果物の皮をよく混ぜる。
- 3) 容器の底に、(2)のぬかを底が見えないくらいしきつめ、その上に大根とぬかを交互に詰めていく。どうしても隙間ができてしまう場合は、(1)の葉とぬかを合わせて詰める。
- 4) 隙間なく詰まったら、残りのぬかの半量をまず敷き、大根の葉を敷いて平らにし、さらに残りのぬかをならす。
- 5) 落としぶたをして、その上に5kg程度の重しを載せる (水の入ったペットボトルなども可)。2週間くらいで水があがってきたら、重しを半分にする。
- 6) 涼しい場所に置いて、1ヶ月～2ヶ月後が食べごろ。

※ウコンやクチナンなどを入れて黄色く染めることもできる。

※酸っぱくなったら炒め物などにもおいしい。

※「アトツギ展」のワークショップ 「記憶を味わうー在来野菜の漬物レシピ」にて調理しました。



# ワークショップ・レビュー

みんなでわいわい、みんなで黙々  
参加者の手から生まれた作品の一部をご紹介します。

## 子どもワークショップ

### くらし・うるし・研究室

ワークショップの研究対象は「漆」。  
実験を通して素材や性質について探求するとともに、  
ものづくりを体験。  
子どもたち自らスプーンの木地を磨く姿は真剣そのもの！



後日、輪島の工房で仕上げたスプーンが到着



ゴシゴシやすって形を整える



仕上がりを確認



スタッフが木地に漆を塗す



コースターとストラップの完成見本

## 「地中海とトルコのイーネオヤ」展 関連ワークショップ

- ①ステッチの練習～コースターの縁飾り
- ②モチーフに挑戦～アサガオのストラップ

縫い針を用い、玉結びを作る繰り返しによって、  
立体的な編み物となる、トルコの「イーネオヤ」。  
基礎を学びながら実用的なアイテムを製作した。



細かい作業の連続で作られるオヤ



講師の手元を注意深く見つめる参加者



## 「アトリエjiwaのじわじわjiwa」展 関連ワークショップ お面を作って変身しよう！

自分の顔の大きさに切り抜いた画用紙に、  
コラージュしたり色を塗ったりして  
想像の生きもののお面をつくり、大変身！

←かいじゅう家族の出来上がり！



つ、つよそう！！



宇宙からやってきた！？



決め顔をバチリっ



切って…貼って…思い思いの作品に



車座になって着彩

体をめいっぱい使って



スポンもキャンパスに

## 「アトリエブラヴォ展覧会」関連ワークショップ アミブラブラヴォ

一本の線や、言葉から見える風景。  
上手く描こうというかみを捨て、  
心に浮かんだままにペンをとると、  
知らず知らずのうちに  
自由に絵が描けるようになる  
魔法のようなワークショップ。



描かれた線から想像を巡らす





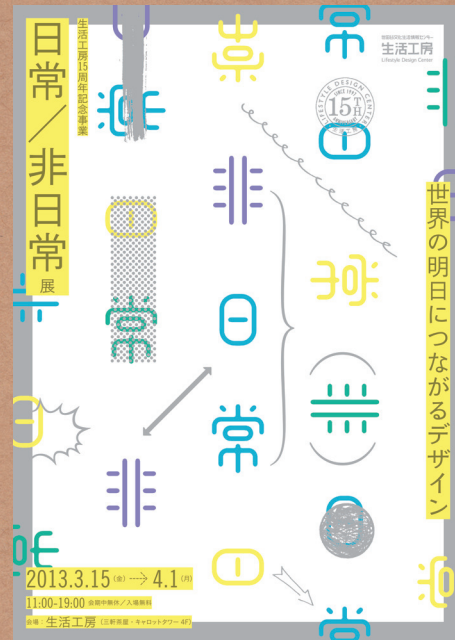
06



05



02



01



08



07



04



03

- 01) 「日常／非日常展」 デザイン(以下、D)⇒片山中蔵
- 02) 「異郷 西江雅之写真展」 D=direction Q
- 03) 「和の色彩と紋様にもみる江戸の粋」 D=アイ・エイチ ファクトリー
- 04) 「地中海とトルコのイーネオヤ」 D=direction Q
- 05) 「アトリエアジワのじわじわアジワ展」 D=すぎはらけいたろう
- 06) 「JAPONDER9 第9回留学生研究発表会」 D=Chae Byung-rok
- 07) 「アトリエアジワ展覧会」 D=中嶋香織
- 08) 「アトツギ展」 D=吉田勝信

# 生活工房 Graphic Design Gallery

事業を案内するチラシやポスター、リーフレットをご紹介します!





14



13



10



09



16



15



12



11

- 09) 「DAYS JAPAN 写真展」 D=世田谷社
- 10) 「インフォメーショングラフィックス展 [環境編]」 D=グルーヴィジョンズ
- 11) 「中学生次世代車教室」 D=小辻雅史
- 12) 「夏の子どもワークショップ」 D=いすたえこ (NNNNY)
- 13) 「分解ワークショップ」 D=瀬畑和美
- 14) 「DJ体験教室」 D=小見山圭太 (DROP)
- 15) 展覧会「14歳のワンピース」 D=いすたえこ (NNNNY)、渡辺明日香
- 16) ワークショップ「14歳のワンピース」 D=いすたえこ (NNNNY)、渡辺明日香





21



20



19



17



22



18

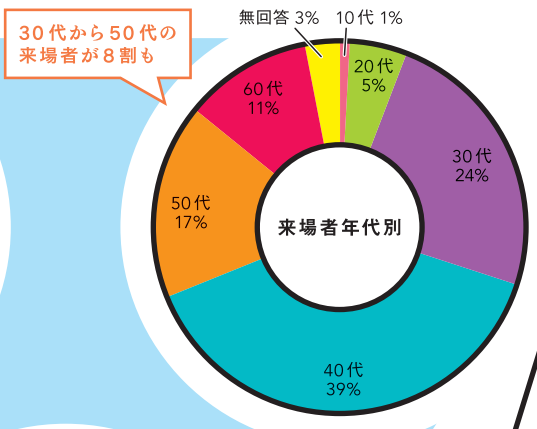
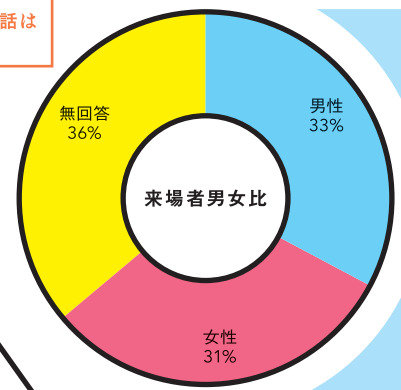
- 17) 「地球に触ろう、“希望の地球”を語ろう！」 D=大原大次郎
- 18) 「生命をつつむ未来繊維2 いつもを運ぶ衣服」 D=サナダスタジオ
- 19) 「知の航海 2012 エネルギーと世田谷モジュール/これからの種」 D=千原航
- 20) 「知の航海 2012 くくのちあきまつり」 イラスト=高橋咲詠 D=千原航
- 21) 「知の航海 2012 たべもののポリティクス」 D=淵上恵美子 アートワーク=浮舌大輔
- 22) 「生活工房イベントガイド」 D=片山中藏

生活工房イベントガイドは、  
四半期ごとに発行し、事業スケジュールの案内や見どころを紹介しています。

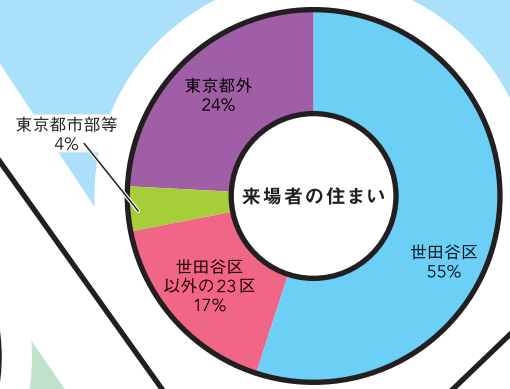
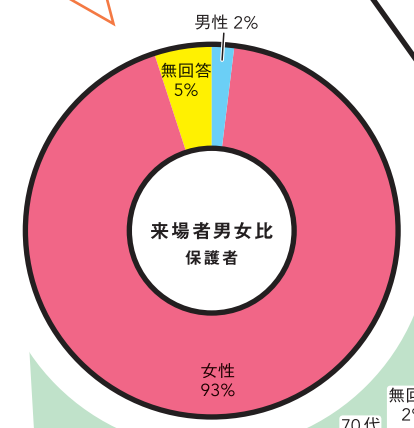


# 数字でみる生活工房の数々

講師・中沢新一さんのお話は男女ともに関心度・高!

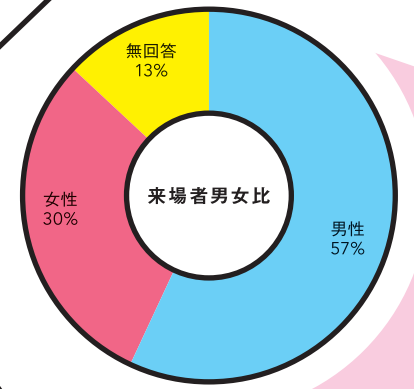


ご夫婦や男性保護者との来場もありました!

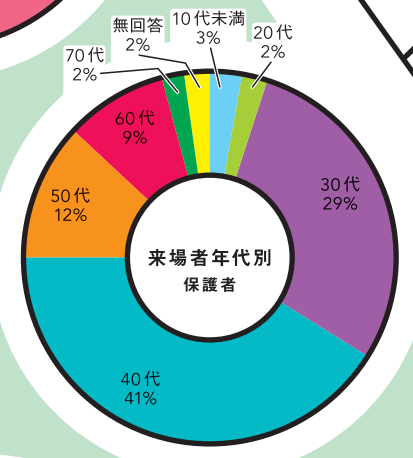


セミナー「知の航海 2012 ぐるぐるエネルギー vol.1」の場合

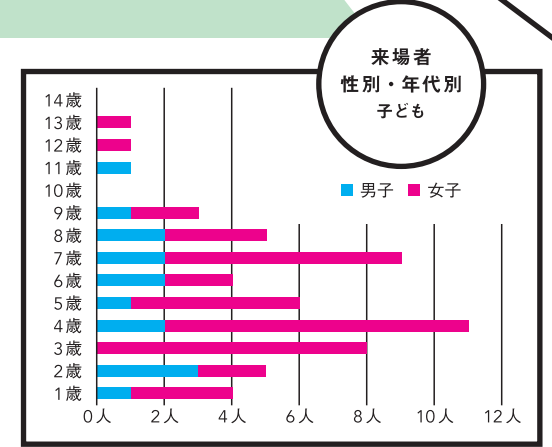
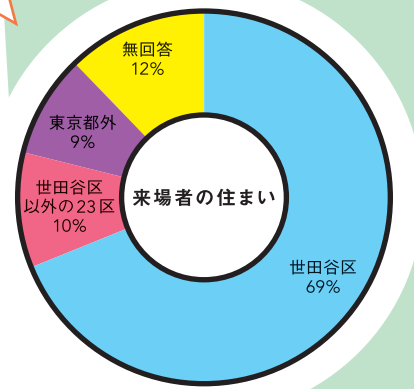
男女の比率は、6:3



地域と市民活動「おはなしいっぱい」の場合



沿線各地からご来場いただいています



## 来場者数

来場者総数	212,966名
展示会	60,483名
ワークショップ	201名
セミナー	1,250名
地域と市民活動	122,273名
貸館使用者・来場者	28,759名

(※展示会の来場者数は関連イベント参加者を含む)

## 事業数

事業総数	105件
展示会	11件
関連イベント	22件
ワークショップ	12件
セミナー	25件
地域と市民活動	25件

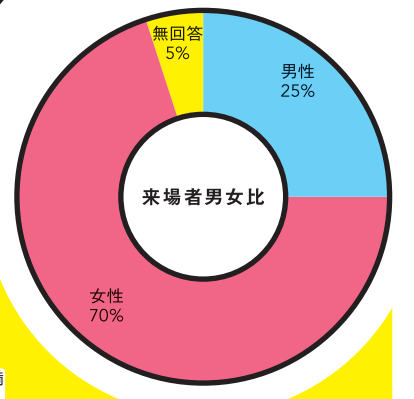
## 月ごとの事業数

4月	5件
5月	2件
6月	8件
7月	13件
8月	10件
9月	7件
10月	6件
11月	9件
12月	5件
1月	6件
2月	9件
3月	8件

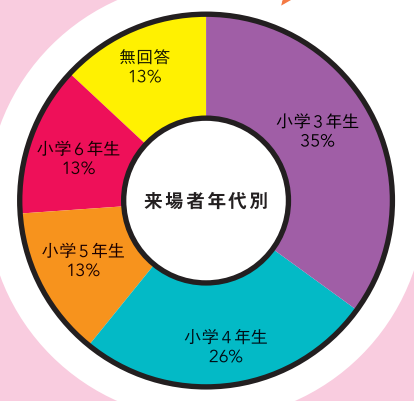
月に平均7.3事業を実施

(※一部、通年事業を除く)

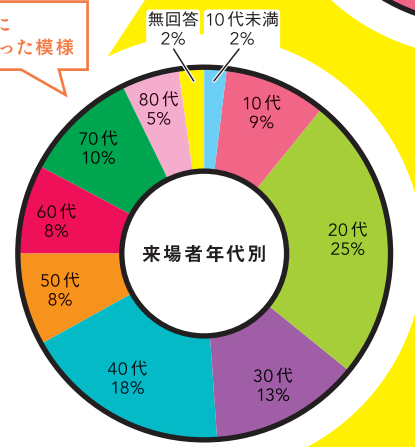
アンケートは女性の回答率が高い傾向があります



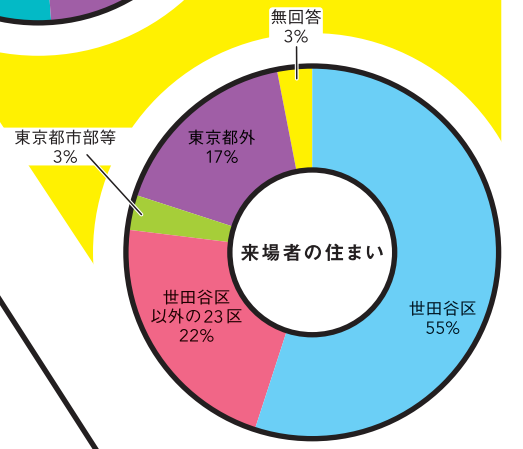
小学生のワークショップ参加は3~4年生が活発です



各年代ともに関心が高かった模様

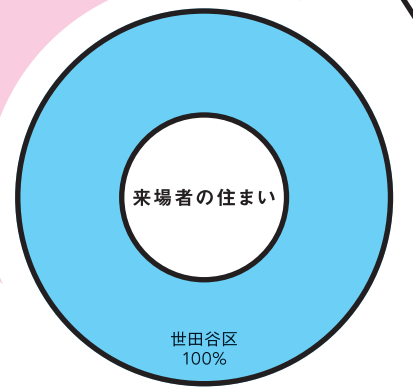


展示会「日常/非日常展」の場合



なかには中国地方からお越しいただいた方も!

ワークショップ「分解ワークショップ」の場合





## 生活工房は、地域の人々の活動や発表の場！

生活工房では多彩な設備を備えたスペースで独自の企画を行うほか、市民団体などに部屋を貸し出しています。**スペースごとに登録条件・利用方法などが異なります**ので、詳細はお問い合わせ下さい。

セミナールーム A (74㎡/定員48名)

セミナールーム B (83㎡/定員48名)

講習会や会議用のスペースです。プロジェクターを含む映像・音響設備も備え、効果的なプレゼンテーションが可能です。各部屋の仕切りを外せば最大で120名まで収容できます。

《貸出対象スペース》



## 5F

ワークショップルーム A (126㎡/定員50名)

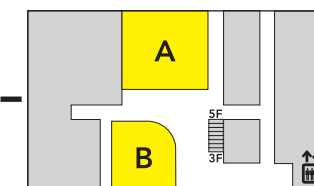
様々な「ものづくり」を目的としたスペースです。併設されたキッチン(63㎡)には、シンクとガスコンロが3ヶ所あり、各種厨房用品も備えています。多人数の交流会にも最適です。

《貸出対象スペース》

ワークショップルーム B (145㎡/定員50名)

扇形の壁面が特徴的な展示スペースです。可動パネルを動かすことで、室内のレイアウト変更ができ、多様な展示が行えます。音響や映像機器を使った集会等の開催も可能です。

《貸出対象スペース》



## 4F

### 生活工房ギャラリー

暮らしのデザインやクラフト、異文化紹介などをテーマに、生活工房が主催する企画展示を約1~2ヶ月ごとに入れ替えながら行っています。開館時間は午前9時~午後8時。

【一般への貸出はしていません】



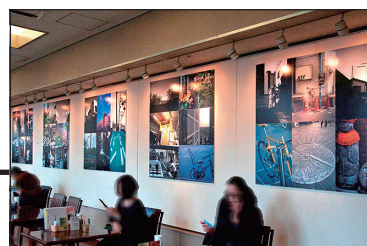
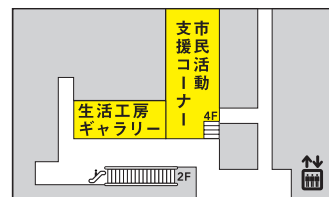
### 市民活動支援コーナー

世田谷で活動している市民活動団体のためのコーナーです。打ち合わせや作業のスペース、チラシや資料を作成するためのプリンタや印刷機などを備えています。

※P.63もご覧下さい。



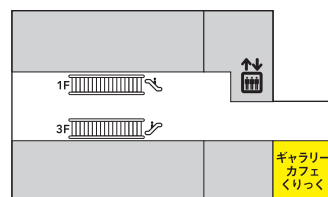
## 3F



### ギャラリーカフェくりっく

1日200人以上の人々が利用する「カフェくりっく」では、壁面を使って一般公募による作品展示を行っています。写真、イラスト、版画、絵画、押し花など約1ヶ月ごとに入れ替えます。《貸出対象スペース》

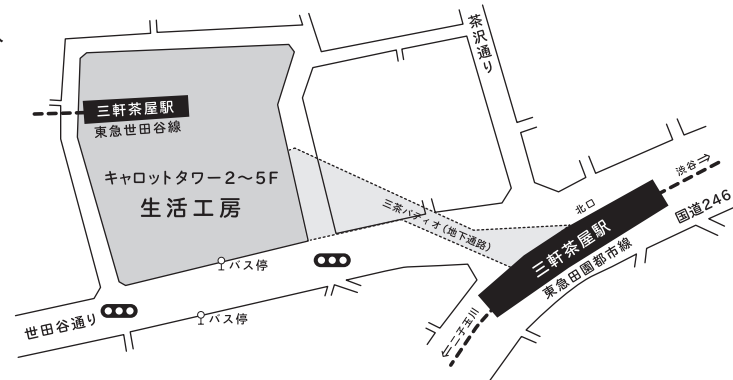
※P.64もご覧下さい。



## 2F

### 生活工房へのアクセス

- ・開館時間：午前9時~午後10時
- ・休館日/管理休館日：年末年始/月曜日(貸出施設のみ。祝祭日と重なる日は除く)
- ・所在地：〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 キャロットタワー
- ・交通：東急田園都市線「三軒茶屋」下車地下道直結徒歩2分  
東急世田谷線「三軒茶屋」下車直結  
小田急バス、東急バス「三軒茶屋」下車徒歩1分
- ・電話：03-5432-1543 (代表)
- ・FAX：03-5432-1559
- ・URL：<http://www.setagaya-ldc.net>
- ・e-mail：[info@setagaya-ldc.net](mailto:info@setagaya-ldc.net)





## ご支援・ご協力いただいた企業、団体、教育・公共機関等

(各50音順)

2012年度、生活工房の活動にご支援・ご協力を頂きました皆様に、この場を借りて深く謝辞を申し上げます。

### 【共催】

株式会社デイズジャパン、財団法人NHK放送研修センター日本語センター、財団法人世田谷トラストまちづくり、SUNUS、社会福祉法人JOY明日への息吹障害福祉サービス事業所JOY倶楽部、社会福祉法人世田谷区社会福祉協議会、社会福祉法人世田谷ボランティア協会、世田谷アートフリマプロジェクト、世田谷おはなしネットワーク、世田谷海外研修者の会、世田谷区生活文化部市民活動推進課、世田谷区地域福祉部生涯現役推進課、特定非営利活動法人国際ボランティア学生会、特定非営利活動法人世田谷NPO法人協議会、東京都立総合工科高等学校、ベスタクス株式会社

### 【協賛】

NPO法人協議会、トヨタ自動車株式会社、理想科学工業株式会社

### 【協力】

アトリエJiwa、一般社団法人Think the Earth、では文化記念館、ZENNY、NPO法人国際ボランティア学生会、NPO法人フードデザインナーズネットワーク、お茶の水・おりがみ会館、株式会社クレヨンハウス、株式会社世田谷社、株式会社出羽庄内地域デザイン、株式会社天空丸、株式会社東芝、

株式会社良品計画、くくのち舎舎、KEN、コード・

モノ・コト、眞田造形研究所、スペース・ユイ、spoken words project、世田谷区保健福祉部障害者地域生活課、世田谷区立児童館、世田谷区立中央図書館、世田谷233、せたがや災害ボランティアの会、太陽工業株式会社、DICカラーデザイン株式会社、direction Q、出羽三山歴史博物館、東京外国語大学学生有志、東京工芸大学、東京農業大学、日本EVクラブ、坂茂建築設計+ボランタリー・アーキテクト・ネットワーク (VAN)、THE BEHEIVE DELUXE Hair Design Gram、米国NPO法人コベルニク、ミフリ、やつかい、有限会社アイエイチ・ファクトリー、ゆかい、横浜ゴム株式会社、リキテックス/バニーコルアート株式会社、輪島キリモト、ワンダーランドハウス&丸山玲一郎

### 【後援】

世田谷市民活動支援会議、鶴岡市観光連盟、鶴岡食文化創造都市推進協議会、トルコ共和国大使館、日本・トルコ協会、日本トルコ文化協会(京都)、羽黒町観光協会、湯田川温泉観光協会

### 【助成】

公益財団法人中島記念国際交流財団

## 生活工房 アニュアルレポート2012

発行日：2013年3月31日

写真：山本光恵

印刷：図書印刷株式会社

協賛：株式会社東急コミュニティー

編集・発行：公益財団法人せたがや文化財団 生活工房

〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-1-1 電話：03-5432-1543 ファックス：03-5432-1559 <http://www.setagaya-ldc.net>

本書の無断転写、複製、転載を禁じます。

©Setagaya Arts Foundation Lifestyle Design Center 2012-2013

Printed in Japan

生活工房アニュアルレポートとは――

生活工房の1年間の活動をまとめた記録・報告書です。